

図書館に関する新聞記事の内容調査

筑波大学

図書館情報メディア研究科

2014年3月

林 麗娜

目次

1.はじめに.....	1
1.1 研究背景.....	1
1.2 研究目的と意義.....	1
1.3 研究仮説.....	1
2.関連研究.....	2
3.調査対象.....	3
3.1 新聞記事のタイトルと本文.....	3
3.1.1 朝日新聞	3
3.1.2 日本経済新聞.....	5
3.2 図書館雑誌の特集のタイトル	8
4.調査手法.....	9
4.1 館種と NDC に基づく手作業による主題分類	9
4.1.1 館種による分類	9
4.1.2 NDC 010 番台による分類.....	11
4.2 KH Coder を用いたテキストマイニング	12
5.調査結果と考察.....	13
5.1 手作業による主題分類の結果	13
5.1.1 館種による分類結果と経年変化.....	13
5.1.2 NDC による分類結果と経年変化	16
5.2 KH Coder を用いたテキストマイニングの結果	19
5.2.1 新聞記事と図書館雑誌の頻出語の特徴.....	19
5.2.2 新聞記事と図書館雑誌に現れる語の経年変化.....	21
5.2.3 新聞記事の頻出語のクラスター分析	28
5.2.4 新聞記事と図書館雑誌の「図書館」周辺の語	34
6.考察：仮説の検証	45
7.おわりに.....	52
7.1まとめ	52
7.2 今後の課題	53
謝辞.....	54
引用文献	55
参考文献	56
付録.....	I

図リスト

図 1 聞蔵II ビジュアル検索画面	4
図 2 朝日新聞 1985 年から 2012 年まで新聞記事数年間変化	4
図 3 日本経済新聞検索画面	6
図 4 日本経済新聞 1985 年から 2012 年まで記事数年間変化	6

表リスト

表 1 朝日新聞の記事の館種による分類	13
表 2 日本経済新聞の記事の館種による分類	14
表 3 両新聞の記事の館種による分類結果の比較	15
表 4 朝日新聞の記事の NDC (010 番台) による分類	16
表 5 日本経済新聞の記事の NDC (010 番台) による分類	17
表 6 両新聞の記事の NDC (010 番台) による分類結果の比較	17
表 7 朝日新聞と日本経済新聞の特徴的な言葉上位 10 語	19
表 8 図書館雑誌の特徴的な言葉	20
表 9 朝日新聞各期間頻出 50 語リスト	23
表 10 日本経済新聞各期間頻出 50 語リスト	25
表 11 図書館雑誌各期間頻出 50 語リスト	27
表 12 朝日新聞 1985 年～1994 年の頻出語のクラスター	28
表 13 朝日新聞 1995 年～2003 年の頻出語のクラスター	29
表 14 朝日新聞 2004 年～2012 年の頻出語のクラスター	30
表 15 日本経済新聞 1985 年～1994 年の頻出語のクラスター	31
表 16 日本経済新聞 1995 年～2003 年の頻出語のクラスター	32
表 17 日本経済新聞 2004 年～2012 年の頻出語のクラスター	32
表 18 朝日新聞「図書館」前後 5 語	34
表 19 日本経済新聞前後 5 語	37
表 20 図書館雑誌「図書館」前後 5 語	41
表 21 朝日新聞記事の電子的な話に関する語の出現回数	46
表 22 日本経済新聞の電子的な話に関する語の出現回数	46
表 23 新聞記事と図書館雑誌で「ビジネス支援」の各期間出現回数	47
表 24 新聞記事と図書館雑誌で「支援」の各期間出現回数	48
表 25 新聞記事と図書館雑誌で「漫画」の各期間出現回数	48
表 26 新聞記事と図書館雑誌で「プライバシー」の各期間出現回数	49
表 27 新聞記事と図書館雑誌で「著作権」の各期間出現回数	50
表 28 新聞記事と図書館雑誌で「レファレンス」の各期間出現回数	50

1. はじめに

1.1 研究背景

メディアが形成する図書館のイメージを明らかにすることを目的として、漫画や映画における図書館や図書館員の描かれ方を調べた研究はいくつかある[1][2][3]。だが漫画や映画と同じく人々の図書館に対するイメージ形成に寄与していると思われる新聞記事における図書館や図書館員の描かれ方を調べた研究はほとんどない。漫画や映画に描かれた図書館像はフィクションかもしれないが多くの人は考えるリテラシーを持っていると思われるが、新聞記事については真実と考える人が多いはずである。そのように考えると新聞記事が人々の図書館像を決定する力は漫画や映画より大きく、それを明らかにすることには様々な意義があると考える。

1.2 研究目的と意義

本研究では、人々の図書館に対するイメージの変遷を間接的に明らかにすることを目的として、新聞記事における図書館の描かれ方を、主にテキストマイニングの手法によって明らかにしたい。新聞記事というメディアの中の図書館像を明らかにできれば図書館関係者はそれを新たなイメージ戦略に活用できる。さらに、新聞記者という図書館外部の人間が有益と判断した事項を把握することができる。それにより図書館関係者には気付きにくい図書館の長所あるいは短所などが明らかになる可能性もある。

1.3 研究仮説

本研究の仮説は以下の 6 つである。即ち

- (1) 以前は他の館種に関する記事が多かったが、現在は一般の人々向けの公立図書館の記事が増えている。
- (2) 以前は図書館の建物に関する記事が多かったが、現在は図書館の建物に關係のない電子図書館や資料の電子化、図書館の電算化といった記事が増えている。
- (3) 人々のニーズの多様化に対して、図書館の機能が多様になりつつある。即ち、図書館は様々なサービスを提供する場所になりつつあり、例えばビジネス支援などの課題解決サービスに関する記事が増えている。
- (4) 漫画に対する関心の高まりと共に、漫画に関する記事が増えている。
- (5) 図書館に関するプライバシーの問題が重要視され、また著作権に関する記事が増えている。
- (6) 図書館雑誌ではレファレンスサービスや指定管理者制度など専門的な点に触れたものが多いが、新聞記事ではあまり触れられていない。

2. 関連研究

本研究の関連研究としては、以下の3つが挙げられる。即ち（1）漫画に見られる図書館のイメージを調べたもの[1]、（2）図書館に関する新聞記事をNDCで分類したもの[5]、（3）サラリーマンに関する記事のテキストマイニングを行ったものである[6]。

山口（2000）の「漫画にみる学校図書館と学校図書館職員のイメージ」は学校図書館と図書館員に対するイメージと現実との差異について分析し原因を考察している。具体的には、1990年以降に発表されたコミック漫画を中心とし、図書館と図書館員の登場場面の有無を調査している。結果、学校図書館は漫画作品に多く登場しているが、「図書館サービスを利用する場所」ではなく、「人気のない静かな場所」というイメージであることを示している。即ち、学校教育にとって必要な機関としては描かれていない。だが、漫画や映画といったメディアとは違って、新聞記事は事実を記録するもので、その中で図書館がどう報道されているかは人々の図書館に関するイメージ形成に影響が大きいと考えられる。

村井（1987）の「図書館に関する新聞記事のクリッピングとその分析」は図書館に関する新聞記事の情報を集め、NDCで分類している。具体的なには新聞記事を「切り抜く道具を何にするか」「何に貼るか」「何で貼るか」といった物理的なクリッピングの話とクリッピングした記事をNDCの「図書館（010）」の項目によって分類している。

樋口（2004）の「計算機による新聞記事の計量的分析－「毎日新聞」にみる「サラリーマン」を題材に」はテキストマイニングを用いて計量的な分析を行っている。具体的には1991年以降の「毎日新聞」からサラリーマンに言及した記事を抽出し、コンピューターを利用したテキストマイニングを行い、その有効性を検証している。

3. 調査対象

本研究の調査対象記事としては、日本経済新聞と朝日新聞の記事で見出しに「図書館」という語を含むものとする¹。日本経済新聞と朝日新聞は日本の代表的な新聞紙であり、筑波大学付属図書館は両新聞のデータベースを導入していることから、記事の全文が入手できる。

新聞記事中に描かれている図書館の特徴を明らかにするために、日本図書館協会が発行する「図書館雑誌」の特集に含まれるタイトルを抽出し、新聞記事と比較した。これによって、図書館関係者（「図書館雑誌」）と外部（新聞記事）で、図書館の描かれ方の違いを明らかにしたい。

3.1 新聞記事のタイトルと本文

調査対象新聞記事は日本経済新聞と朝日新聞の記事で見出しに「図書館」という語を含み、かつ実際に図書館について扱っている記事とした。調査対象期間は 1985 年から 2012 年までの 28 年で、月ごとに 1 記事ずつ抽出した。日経テレコン（日本経済新聞データベース）、蔵書 II ビジュアル（朝日新聞データベース）それぞれで記事の発行年と月を指定し、見出しに「図書館」を含むという条件で検索し、適合度一位としてヒットした記事を抽出した²。記事がない月は調査対象から外すことにした。そのため、調査対象記事は後述するように $28 \times 12 = 336$ よりも少ない。

調査では 28 年分の記事を以下の三つの等しい長さの期間に分けて、新聞記事の経年変化や各期間の特徴などの分析を行う³。

- (1) 1985 年 1 月～1994 年 12 月 9 年間の記事 (120 月)
- (2) 1995 年 1 月～2003 年 12 月 9 年間の記事 (108 月)
- (3) 2004 年 1 月～2012 年 12 月 9 年間の記事 (108 月)

新聞記事と比較するため、図書館雑誌も同じように三つの期間に分けて、分析する。

3.1.1 朝日新聞

朝日新聞については朝日新聞のデータベース蔵書 II ビジュアルから記事を抽出した。蔵書 II ビジュアルは 1985 年から全文検索ができる。図 1 のように検索の対象紙名は「朝日新聞」とし、1985 年から 2012 年までの記事を対象に、「検索対象」オプションを「見出し」に設定し、「キーワード」を「図書館」にして検索した。ヒットした件数は 8,493 件であった。ちなみに、検索対象オプションを「見出しと本文」にした場合、検索結果は 61,642 件

¹ 新聞記事の見出しあはこの記事が一番伝えたいことを書いていて、図書館に関する記事を特定できると考え、見出しに「図書館」を含む記事を抽出した。

² 両データベースにおける適合度の算出方法は公開されていないが、特定の偏りを生む方法ではないことを期待し、上記の方法を採用した。

³ 経年変化の分析方法としてはこのように等間隔に期間を区切るのではなく、大きな出来事を区切りとすることも考えられるが、それについては今後の課題とする。

であった。検索オプションの「本紙／地域面」は本紙と地域面両方にした。

検索モード シンプル検索 詳細検索 ナビ検索

対象紙誌名 朝日新聞 アエラ 週刊朝日

キーワード 図書館 検索実行

AND OR NOT 関連キーワード参照

異体字を含めて検索

発行日 3ヶ月 6ヶ月 1年 全期間

1985 年 1 月 1 日 から
2012 年 12 月 31 日

検索オプション

検索対象 見出しと本文 見出し
 本文

分類 参照

朝夕刊 朝刊 夕刊

面名 参照

本紙/地域面 本紙 地域面

図 1 聞蔵II ビジュアル検索画面

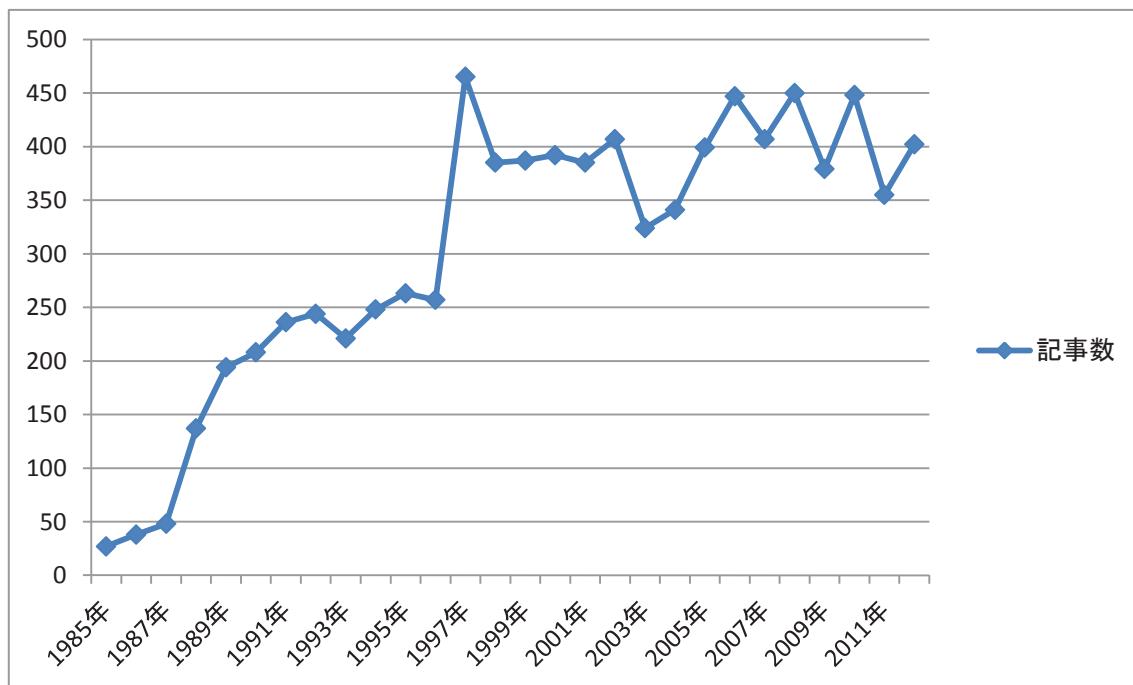


図 2 朝日新聞 1985 年から 2012 年まで新聞記事数年間変化

朝日新聞 1985 年から 2012 年までの 28 年間図書館に関する新聞記事数（見出しに「図書館」を含むもの）の変化を図 2 に示したことがわかる。1995 年記事数が大幅に増加した。その後、記事数はやや減ったが、400 件前後で横ばいになっている。

抽出した記事が図書館に関する記事かどうかは筆者が記事を読んで主観で判断した。その際、一応の基準として以下のようないくつかの記事は見出しに「図書館」を含んでいても図書館に関する記事ではないと判定することにした。

1. 図書館が例えに使われている記事
 - ・(豊後ジャーナル) 二人の先輩と図書館 花宮広務さん 2010/06/02
2. 図書館情報大学に関する記事（図書館について言及していない記事）
 - ・図書館情報大、法人化移行で 2 年早い「幕」 最後の卒業式 2004/03/26
3. その他に図書館と関係ないとみなした記事
 - ・世界中を図書館に 不要本をサイト登録、共有物に 広島でも始まる 2007/05/01
 - ・図書館駅（今日の問題） 1986/03/14

結果、先述のように、朝日新聞では図書館について扱っている記事がないと判断した月は以下の 8 つとなった。従って、朝日新聞の調査対象記事数は $28 \times 12 - 8 = 328$ 件となった。

1985 年 3 月

1985 年 4 月

1985 年 6 月

1985 年 8 月

1985 年 9 月

1985 年 11 月

1986 年 7 月

1988 年 3 月

3.1.2 日本経済新聞

日本経済新聞については日本経済新聞のデータベース日経テレコンから記事を抽出した。日経テレコンは 1981 年 10 月以降の全文記事が検索できるが、朝日新聞と同じ期間を分析するため、1985 年からの記事を検索対象とした。図 3 のように朝日新聞と同様「検索範囲」オプションは「見出し」とし、キーワードは「図書館」とし、1985 年から 2012 年までの各月から図書館に関する記事を 1 件ずつ抽出した。ちなみに「検索範囲」オプションを「見出し」とした場合ヒットした件数は 2,971 件、「見出し」と「本文」とした場合のヒット件数は 15,568 件であった。検索対象紙名は日本経済新聞朝刊、日本経済新聞夕刊、日経地方経済面である。

検索条件 [閉じる](#)

期間	<input type="radio"/> 1ヶ月 <input type="radio"/> 3ヶ月 <input type="radio"/> 6ヶ月 <input type="radio"/> 1年 <input type="radio"/> 全期間 <input checked="" type="radio"/> 19850101 ~ 20121231
検索方式	<input type="radio"/> すべての語を含む <input type="radio"/> いずれかの語を含む <input type="radio"/> 自然文検索
一致方式	<input checked="" type="radio"/> 完全一致 <input type="radio"/> 任意一致
検索範囲	<input checked="" type="checkbox"/> 見出し <input type="checkbox"/> 本文 <input type="checkbox"/> キーワード <input type="checkbox"/> 分類語
同義語展開	<input type="radio"/> する <input checked="" type="radio"/> しない
シソーラス展開	<input type="radio"/> する <input checked="" type="radio"/> しない
ページ	<input type="text"/> ページ (~ <input type="text"/> ページ)
追加条件	詳細条件を追加する

[すべての媒体を選択／解除](#) [媒体を探す](#) [すべて展開](#) [ヒットした](#)

<input checked="" type="checkbox"/> 新聞 (2971)	<input checked="" type="checkbox"/> 調査・統計・マーケティング
<input checked="" type="checkbox"/> 日経各紙 (2971)	<input checked="" type="checkbox"/> 統計情報
<input checked="" type="checkbox"/> 日本経済新聞朝刊 (669)	<input checked="" type="checkbox"/> マーケティング情報
<input checked="" type="checkbox"/> 日本経済新聞夕刊 (1203)	
<input type="checkbox"/> 日経産業新聞 (327)	
<input type="checkbox"/> 日経MJ(流通新聞) (186)	
<input type="checkbox"/> 日経金融新聞(※) (9)	
<input checked="" type="checkbox"/> 日経地方経済面 (1099)	

図 3 日本経済新聞検索画面

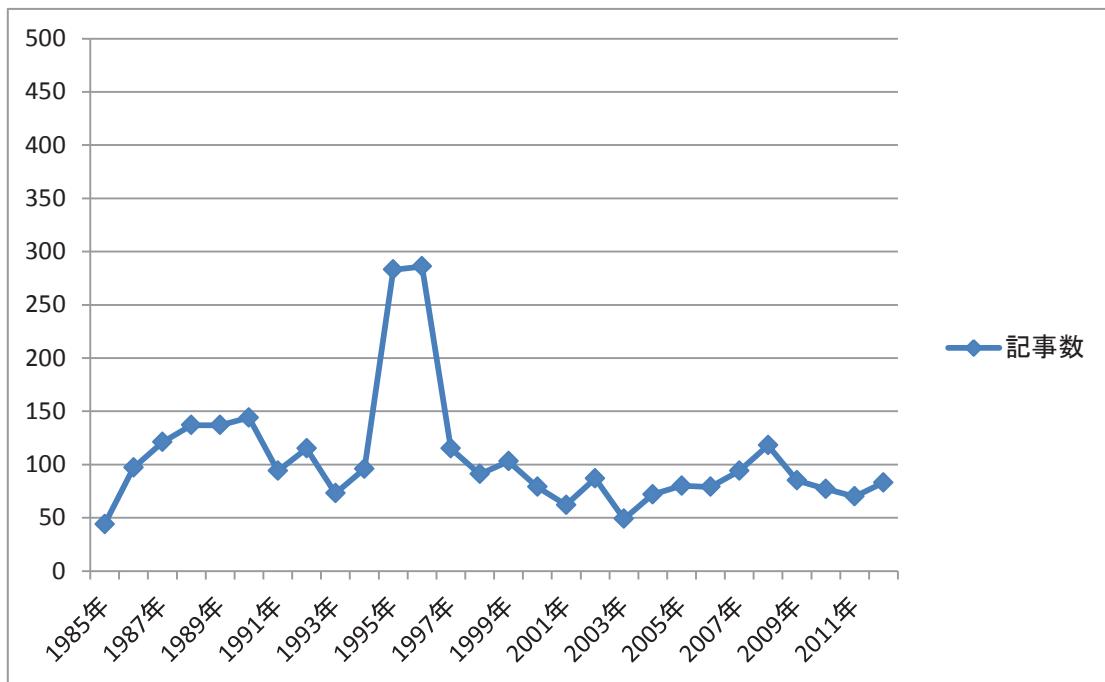


図 4 日本経済新聞 1985 年から 2012 年まで記事数年間変化

日本経済新聞 1985 年から 2012 年までの 28 年間の図書館に関する新聞記事数（見出しに「図書館」を含むもの）の変化を図 4 に示した。この図から、1995 年と 1996 年新聞記事は急激に増加し、その後は従前の水準に戻っていることが分かる。日本経済新聞の図書館に関する記事数は全体的に朝日新聞より少ない（再掲すると 2,791 件と 8,493 件である）。

以下のような記事は見出しに「図書館」を含んでいても図書館に関する記事ではないと判断することにした。

1. 夕やけ図書館など文庫名の場合

- ・シャーロッキアンの新たなる冒険、河村幹夫著 1996/10/01

2. 図書館が例えに使われている記事

- ・マンガ・アニメ市場、オタクヒット街で続々——マンガ喫茶、図書館の 2 万冊 1997/03/02

3. 図書館に関する人がインタビュー対象になり、内容は図書館と関係ない記事

- ・標準語操る不思議な村——秋田市立中央図書館明徳館館長北条常久氏（文化） 2006/11/10

4. 会社の記事

- ・アイ・ヴィー・シー、DVD ソフト、図書館に発売 1999/08/02

5. その他、図書館と関係ないとみなした記事

- ・元大分県立図書館職員平野昭光氏——自宅を留学生の交流の場に開放（人） 1985/10/03
日本経済新聞 1985/10/03

- ・マチルダ——身近な図書館の役割（ビジネス in シネマ） 1997/01/04 日本経済新聞 1997/01/04

- ・顔をあわせないラーメン店——左右に仕切り、図書館の学習室がヒント（東西南北） 2002/01/10

- ・シニア、自宅外に居場所——貸事務所・マンガ喫茶・図書館（日曜版） 2004/01/25

- ・われら国連人（1）総長室から図書館まで（ドキュメント挑戦） 2005/07/04

結果、日本経済新聞では図書館について扱っている記事がないと判断した月は以下の 5 つとなった。従って、日本経済新聞の調査対象記事数は $28 \times 12 - 5 = 331$ 件となった。

1985 年 6 月

1993 年 5 月

2000 年 2 月

2000 年 11 月

2004 年 1 月

新聞記事のタイトルと本文は以下のように編集した（H2 は KH Coder で分析するためのタグである）。

<H2>90.</H2>
<date>2011年06月03日 朝刊 埼玉AC・2地方 028 00169 文字</date>
<title>絵本の読み聞かせ 蕨市立図書館で11日／埼玉県</title>
<body>蕨市立図書館本館で11日、絵本と紙芝居の読み聞かせが行われる=写真は蕨市提供。1階円形劇場にて、図書館ボランティアによる絵本の読み聞かせや、紙芝居が行われる。当日の紙芝居の演目は「ありのちっぷ」「るるのおうち」など。時間は午後2時30分～同50分。入場無料で、事前の申し込みは不要。問い合わせは同図書館（048・444・4110）～。</body>
<type>公立図書館</type>
<NDC>015.016</NDC>

3.2 図書館雑誌の特集のタイトル

日本図書館協会が毎月出版する「図書館雑誌」の特集に含まれる記事のタイトルを手作業で入力した。基準は毎年図書館雑誌にある「特集テーマ一覧」で挙げた特集を対象とする。二つの特集を掲載する月もあるため、記事の数は年分 28×12 月では計算できない。抽出した特集の数は、1985年から2012年まで全350個であり、含まれるタイトルの数は2,895個である。

特集を分析するため以下のように編集した(H1~H3はKH Coderで分析するためのタグである)。

<H1>一、1985年1月～1994年12月</H1>
<H2>1985年</H2>
<H3>1985年1月</H3>
特集：昭和59年度全国図書館大会ハイライト
<title>すべての住民に図書館サービスを——中小図書館めぐり、それを支えるもの</title>
<title>住民参加の図書館めぐり——市立図書館の存立基盤</title>
<title>大学図書館ネットワークの基盤整備のために——収書における相互協力</title>

4. 調査手法

調査手法としては手作業による分類とテキストマイニングの二つの方法を用いた。まず記事で取り上げられている館種 NDC と別主題を手作業で明らかにする。そして、テキストマイニングツールを用いて、頻出する語や語同士の関係を明らかにする。この時フリーのテキストマイニングツールである KH Coder⁴を用いて、分析を行う。

手作業による分析は主観的で調査結果の再現性が低いという問題があるので、テキストマイニングツールを併用した。

4.1 館種と NDC に基づく手作業による主題分類

以下では館種と NDC に基づく手作業による主題分類について説明する。

4.1.1 館種による分類

手作業による分類⁵では館種として国会、公立⁶、学校、大学、専門、子ども、点字、電子、外国、図書館一般、その他、の 11 種類に分類した。図書館は館種によって、サービス対象やサービス内容が大きく異なる。従って、館種の違いを見ることで、新聞記者が注目する図書館サービスや、それによって一般市民の間で形成される図書館イメージがある程度明らかにできると考えた。例えば、公立図書館は貸出やレファレンスなどを通じて一般市民に直接接する図書館と位置づけることができる。それに対して国会図書館は研究者（あるいは国会議員）向けの図書館と位置付けることができる。どちらの図書館に関する記事が近年増えてきたかを調査することで、図書館は一般市民のものか研究者のものかといったイメージ変化を調べることができると考えた。

上記の館種で分類する「図書館一般」とは記事の内容は特にどの図書館ではなく、図書館が対象とした記事である。

以下が図書館一般の一例として挙げる。

```
<date>1993/02/05 日本経済新聞 地方経済面 北関東 4 ページ 356 文字 </date>
<title>三上建築事務所社長三上清一氏——新しい図書館像を勉強中（交差点）</title>
<body>○… 「今後の図書館がどうあるべきかをみんなと勉強している」と語るのは三上建築事務所（水戸市）の三上清一社長。高度情報化社会が進み、余暇時間が増える中で、図書館の利用の仕方も変わってきた。「昔は直接、本を手に取れなかつたが、今は自
```

⁴ KH Coder とは計量的なテキスト分析のためのフリーソフトウェアである。

<http://khc.sourceforge.net/>

⁵ 社会面、文化面といった「面」の違いを分析対象としない理由としては、日経テレコンや聞蔵II ビジュアルには「面」の情報は含まれていない。また、過去の縮刷版を手作業で調べれば「面」情報は把握できるが、その作業コストは膨大である。コストに見合うだけの有益な分析結果はイメージしがたい。

⁶ 現在、手作業による「館種」の分類では、公立図書館を「県立」「市立」「村立」などに細分してはいない。

分で持ってこられる開かれた図書館になってきた。A V機器などのニューメディアも増えている」と変化の波を数え挙げる。

○…「変化に対応した良い図書館を造ろうと思ったら、建築主である行政サイドの理解が不可欠。各地の優れた施設と一緒に見学して、現地で話を聞き、あるべき姿とともに学んでいくことに力を入れている」と基礎学習の大切さを強調。同社の若い社員にとっても「単なるものづくりではないソフトを考えた建築のあり方を探るうえでも役立っている」と勉強の成果が表れる日を楽しみにしている様子。</body>

<type>図書館一般</type>

<NDC>015.016</NDC>

「その他の図書館」とは下記の例のような記念図書館や、移動図書館、個人の家に開放する図書館などである。

<date>1994/12/13 日本経済新聞 西部夕刊 社会面 20 ページ 352 文字</date>

<title>北九州市、大連友好都市15周年記念図書館が完成</title>

<body>一九〇二年（明治三十五年）、帝政ロシアが中国の大連市に建てたドイツ風建築の複製が十三日、門司港に完成した。北九州・大連友好都市締結十五周年を記念して、北九州市が図書館として建設した。

この図書館の名称は「北九州市立国際友好記念図書館」で、鉄筋コンクリート三階建て。東アジアにあるドイツ人建築家の作品としては貴重な建物で、大連市に数ある近代建築物の中でも歴史的価値が高いという。

帝政ロシア時代は東清鉄道の事務所、日本統治時代は図書館として利用された。戦後は大連図書館と名を変えた後、今は共同住宅として使われている。

北九州市は、中国など東アジアに関する図書や資料を展示するほか、中華料理の講習室も設けて、市民が中国の食文化に接する機会を提供する。今後、内装工事などを進めて三月から一般に公開する予定だ。</body>

<type>その他の図書館</type>

<NDC>011.016</NDC>

4.1.2 NDC 010 番台による分類

関連研究として先述の村井恵（1987年）があるが、村井はクリッピングした記事をNDC 010番台で分類している⁷。村井と同じ方針で分類することにより、1987年以前の結果とある程度比較できるようになると考えた⁸。

NDC 010（図書館・図書館学）番台の項目は、以下の9個である。

- 011 図書館政策・図書館行財政
- 012 図書館建築・図書館設備
- 013 図書館管理
- 014 資料の収集・資料の整理・資料の保管
- 015 図書館奉仕・図書館活動
- 016 各種の図書館
- 017 学校図書館
- 018 専門図書館
- 019 読書・読書法

本研究で提案する分類方法では、一つの記事を以下のように二つのNDC項目に分類している。まず記事の主題を011、012、013、014、015、019のいずれかに分類する。記事が取り上げている館種を016、017、018のいずれかに分類する。

朝日新聞では

主題：011+012+013+014+015+019=328件

主題：016+017+018=328件

日本経済新聞では

主題：011+012+013+014+015+019=331件

主題：016+017+018=331件

⁷ 本研究と村井との違いとしては、村井の論文は9ページだが、フォントサイズが大きく実質的な分量は多くない。その内容は物理的クリッピングの話が多い。随想的な内容を中心であり、記事の内容を詳しく分析したものではない。

⁸ 村井の研究ではNDCによる分類で記事の更なる細分化（014.1、14.2...などによる細分化）したが、本研究では分類に主観性が強いかつ分類が困難なため、細分化は行わなかった。

4.2 KH Coder を用いたテキストマイニング

テキストマイニングとは、テキストデータを様々な計量的方法によって分析し、形式化されていない膨大なテキストデータの中から言葉同士に見られるパターンや規則性を見つけ、役に立ちそうな知識・情報を取り出そうとする手法・技術である[7]。

KH Coder によるテキストの前処理⁹として強制抽出する語と使用しない語を指定した。ここで KH Coder における強制抽出する語の指定とは、機械的に行う形態素解析ではばらばらになってしまう複合語を、1つの複合語としてまとめるように手作業で指定する事である。例えば形態素解析で「国立」「国会」「図書館」のように分解されてしまう語を「国立国会図書館」という語として強制的に抽出するよう指定できる。本研究では、以下の語を複合語として強制抽出する語に指定した。

- ・図書館

国立国会図書館、国立図書館、公共図書館公立図書館、学校図書館、大学図書館、専門図書館、子ども図書館、電子図書館、移動図書館、県立図書館、市立図書館、村立図書館、町立図書館、ビジネス図書館、町立図書館、中央図書館、日本図書館協会、国際子ども図書館、国際図書館連盟

- ・電子

電子化、電子図書、電子データ、電子出版物

- ・支援

ビジネス支援、創業支援、学習支援

- ・センター

情報センター、学術情報センター、保険センター、医療センター、生涯学習センター

- ・その他

自動書庫、自動貸出機、無人貸出機、障害者、障害児、教育委員会、専門書、専門家、高齢者、高齢化

また、以下の語を使用しない語として抽出した。

ページ、文字、body、/body、date、/date、title、/title、type、/type、NDC、/NDC、年、月、朝刊、夕刊

⁹ KH Coder でテキストマイニングを行う際に、データの前処理として、「子供」で表記したものすべて「子ども」に置換した。また、「貸し出し」「貸出し」で表記したものすべて「貸出」に置換した。

5. 調査結果と考察

5.1 手作業による主題分類の結果

5.1.1 館種による分類結果と経年変化

館種	1985 年～1994 年	1995 年～2003 年	2004 年～2012 年
国立国会図書館	25	12	4
公立図書館	52	74	90
学校図書館	4	2	2
大学図書館	6	5	5
専門図書館	12	6	2
子ども図書館	1	3	1
点字図書館	2	1	1
電子図書館	1	0	1
外国の図書館	5	3	0
図書館一般	3	0	1
その他の図書館	1	2	1
小計	112	108	108
合計			328

表 1 朝日新聞の記事の館種による分類

表 1 は各期間における朝日新聞の記事の館種による分類結果である。国立国会図書館に関する記事数が経年的に減少しているが、公立図書館に関する記事数が経年的に増加する傾向が見られる。専門図書館は減少傾向にある。どの期間でも公立図書館の記事数が最も多い。

館種	1985 年～1994 年	1995 年～2003 年	2004 年～2012 年
国立国会図書館	36	20	12
公立図書館	43	52	62
学校図書館	2	0	2
大学図書館	6	5	16
専門図書館	18	4	3
子ども図書館	0	5	1
点字図書館	1	1	1
電子図書館	0	4	2
外国の図書館	5	6	3
図書館一般	5	6	5
その他の図書館	2	3	0
小計	118	106	107
合計			331

表 2 日本経済新聞の記事の館種による分類

表 2 は各期間における日本経済新聞の記事の館種による分類結果である。国立国会図書館に関する記事数が経年的に減少しているが、公立図書館に関する記事数は増加する傾向が見られる。専門図書館に関する記事はこちらでも減少傾向にある。

どちらの新聞でも国立国会図書館に関する記事数が減少し、公共図書館に関する記事数が増加する傾向がある。図書館はより一般の人々向けのようなイメージが人々の間に浸透しつつある。特に朝日新聞では 2004 年～2012 年の期間で公立図書館を扱う記事数が 90 と非常に多い。

表 3 は朝日新聞と日本経済新聞の記事の館種による分類結果である。朝日新聞は公立図書館に関する記事が多いのに対して、日本経済新聞では国立国会図書館に関する記事が比較的多い。また、大学図書館、専門図書館、外国の図書館、図書館一般に関する記事数は、全て日本経済新聞が多い。日本経済新聞の図書館に関する記事の報道範囲は朝日新聞より広いと言えるであろう。

館種	朝日新聞	日本経済新聞
国立国会図書館	41	68
公立図書館	216	157
学校図書館	8	4
大学図書館	16	27
専門図書館	20	25
子ども図書館	5	6
点字図書館	4	3
電子図書館	2	6
外国の図書館	8	14
図書館一般	4	16
その他の図書館	4	5
合計	328	331

表 3 両新聞の記事の館種による分類結果の比較

5.1.2 NDC による分類結果と経年変化

図書館・図書館学	1985 年～1994 年	1995 年～2003 年	2004 年～2012 年
011 図書館政策. 図書館行財政	29	27	23
012 図書館建築. 図書館設備	11	13	5
013 図書館管理	31	16	11
014 資料の収集. 整理. 保管	13	8	14
015 図書館奉仕. 図書館活動	28	44	55
016 各種の図書館	90	95	99
017 学校図書館	10	7	7
018 専門図書館	12	6	2
019 読書. 読書法	0	0	0

表 4 朝日新聞の記事の NDC (010 番台) による分類

表 4 は各期間における朝日新聞の記事の NDC による分類結果である。図によると、「015 図書館奉仕. 図書館活動」は増加する傾向が見られる。「013 図書館管理」は減少傾向にある。また、「011 図書館政策. 図書館行財政」も多少減少傾向にあると言えるかもしれない。

図書館・図書館学	1985年～1994年	1995年～2003年	2004年～2012年
011 図書館政策. 図書館行財政	41	24	15
012 図書館建築. 図書館設備	13	14	25
013 図書館管理	28	23	12
014 資料の収集. 整理. 保管	16	15	13
015 図書館奉仕. 図書館活動	19	30	42
016 各種の図書館	92	97	86
017 学校図書館	8	5	18
018 専門図書館	18	4	3
019 読書. 読書法	1	0	0

表 5 日本経済新聞の記事の NDC (010 番台) による分類

表 5 は各期間における日本経済新聞の記事の NDC による分類結果である。図によると、1985 年～1994 年までは「011 図書館政策・図書館行財政」の記事が多かったが、近年では「015 図書館奉仕・図書館活動」など一般の人々向けのサービスに関する記事が多くなっている。また、「012 図書館建築・図書館設備」に関する記事にも増加傾向が見られる。

図書館・図書館学	朝日新聞	日本経済新聞
011 図書館政策. 図書館行財政	79	80
012 図書館建築. 図書館設備	29	52
013 図書館管理	58	63
014 資料の収集. 整理. 保管	35	44
015 図書館奉仕. 図書館活動	127	91
016 各種の図書館	284	275
017 学校図書館	24	31
018 専門図書館	20	25
019 読書. 読書法	0	1

表 6 両新聞の記事の NDC (010 番台) による分類結果の比較

表 6 は朝日新聞と日本経済新聞で NDC による分類結果である。朝日新聞では「015 図書館奉仕・図書館活動」が多いのに対して、日本経済新聞では「012 図書館建築・図書館設備」が比較的多かった。両新聞が焦点を当てる図書館の側面に関しては、このように違いが見られる。

村井（1987）の研究¹⁰は具体的な記事の数で計算するではなく、全体的に占める量（パーセント）で計算している。分類した結果、一番多いのは「014 資料の収集・整理・保管」19%、次に「015 図書館奉仕・図書館活動」15%、そして「016 各種の図書館」13%である。本研究では014に分類されるものは011、013、015より少なかった。図書館の基本的な機能は村井の研究当時より記事に取り上げられる回数が減った可能性がある。それに対して、図書館のサービスの提供に関する記事が増えつつあると考えられる。

また、村井の研究では図書館の館種について「016 各種の図書館」、「017 学校図書館」「018 専門図書館」に分類された割合は13%、11%、6%である¹¹。各種の図書館と学校図書館の比重はそれほど差がなかったが、本研究では「016 各種の図書館」は圧倒的に多い。新聞記事では一般の人々向けの図書館に関するものが多く取り上げられてきたといえるであろう。

¹⁰ 村井の研究では一つの記事を一つの項目に分類した。本研究では一つの記事を二つの項目に分類した。比較しづらい部分はあるが、全体的に占める比重である程度比較できると考えた。

¹¹ 村井の研究で記事は「図書館に関する情報を網羅的に集まる」だが、主観的に有益な情報を集めることが考えられる。

5.2 KH Coder を用いたテキストマイニングの結果

5.2.1 新聞記事と図書館雑誌の頻出語の特徴

両新聞記事と図書館の頻出 150 語リスト¹²の中で一方だけに頻出する特徴的な語を抽出して比較してみた。結果は以下の通りである。

	朝日新聞		日本経済新聞	
	抽出語	出現頻度	抽出語	出現頻度
1	子ども	132	システム	155
2	児童	130	計画	122
3	読む	123	書籍	86
4	司書	104	増える	85
5	読書	103	センター	83
6	コーナー	94	地域	83
7	説明	87	公開	82
8	展示	87	企業	81
9	絵本	70	事業	81
10	コンピューター	67	設置	76

表 7 朝日新聞と日本経済新聞の特徴的な言葉上位 10 語

表 7 は朝日新聞と日本経済新聞の特徴的な言葉上位 10 語である。

朝日新聞では「子ども」、「児童」、「読書」といった言葉が特徴的な頻出語と考えられた。それに対して、日本経済新聞では「システム」、「計画」、「企業」、「事業」といった言葉が特徴的な頻出語となった。

図書館の電算化に関する記事では、朝日新聞は「コンピューター」という語を用いるのに対し日本経済新聞は「システム」という語を用いた。実際の記事としては、朝日新聞の「図書館業務を電算ネット化 四日市の3館、11日から」(1997年1月5日)、日本経済新聞の「長野図書館の電算機システム、全体を一括発注一県、“一円落札”再発防ぐ」(1990年2月8日)といった記事があった。

さて、両新聞については一般に次のように語られることが多い。上記の傾向はこれと合致すると考えることもできる。即ち、朝日新聞はいわゆる左翼的な考え方に基づく新聞であり、弱者救済、人類平等といった主張が多い。中道左派、革新、進歩、リベラル言論の代表紙と評されている[8]。それに対して、日本経済新聞は紙名が示す通り経済を中心に扱う新聞であり、産業関係の記事が多い。

¹² 具体的の表は付録に参照する。

図書館雑誌		
	抽出語	出現頻度
1	サービス	348
2	教育	139
3	自由	111
4	職員	107
5	司書	86
6	障礙者	76
7	制度	76
8	著作権	74
9	養成	65
10	研修	55

表 8 図書館雑誌の特徴的な言葉

さて表 8 は図書館雑誌に頻出しながら両新聞では相対的に出現頻度が低い語である。換言すると、両新聞と比較して図書館雑誌に特徴的な語である。

全般に「障礙者」「制度」「養成」「研修」など実務的な言葉が多く、仕事に役に立つ話が多い。例えば、「障碍者」という語は障碍者サービスに関するタイトルが多く、「制度」は「指定管理者制度」、「認定司書制度」、「専門職員認定制度」などについてのタイトルで使われている。

「教育」という言葉の出現頻度が特に高い。「図書館学教育」「図書館利用教育」といった特集のタイトルで使われることが多い。「自由」は「図書館の自由¹³」に関するタイトルで使われている。

¹³ 図書館の自由に関する宣言は以下のようである。 i 図書館は資料収集の自由を有する。
ii 図書館は資料提供の自由を有する。 iii 図書館は利用者の秘密を守る。 iv 図書館はすべての検閲に反対する。

5.2.2 新聞記事と図書館雑誌に現れる語の経年変化

5.2.2.1 朝日新聞に現れる語の経年変化

表9は朝日新聞における各期間の頻出50語のリストである。以下に各語の出現頻度の経年変化について述べる。

- ・「国立国会図書館¹⁴」は経年的に減少した。1986年～1994年における出現頻度は高かつたが、1995年から大幅に減少した。2004年以降は頻出50語の中に入っていない。1985年～1994年の期間では国立国会図書館の人事に関する記事が多かった。
- ・「資料」は1985年～1994年の期間で出現頻度が高く、資料の収集や展示会に関する記事で使われることが多かった。実際の記事では「81人、孤島で2年余、ブラジル「勝ち組」の獄中記 国会図書館が資料公開」(1985年5月4日)といったものがあった。また、「視聴覚資料」という語もよく使われていた。具体的な記事としては、「公立図書館に朗読テープ導入増える 読書への入り口に」(1988年11月1日)といったものがあった。
- ・「子ども」は1995年～2003年の期間でのみ出現頻度が増加した。これは2000年の「子ども読書年」と2001年12月に成立した「子どもの読書活動の推進に関する法律案」の影響だと考えられる。子どもの読書離れが指摘されている中、子どもの読書活動を推進するため、平成12年(2000年)を「子ども読書年」とした。

「平成12年5月には、国立国会図書館の支部図書館として「国際子ども図書館」が開館し、さらに平成13年4月には「子どもゆめ基金」が創設され、民間団体の行う子どもの読書活動等に対する助成が始まる。平成13年11月、議員立法により「子どもの読書活動の推進に関する法律案」が提出さて、同年12月に成立、公布・施行された。」[9]

- ・「コンピューター」は徐々に減少している。1985年～1994年の期間では「コンピューター利用」「コンピューター化」などの表現が使われている。具体的な記事としては「図書館情報大学、コンピューターで蔵書をスピード管理化」(1986年8月7日)、「水戸市立の2図書館が89年にコンピューターで直結」(1988年12月4日)といった記事があった。1995年～2003年の期間では「コンピューターの導入」という表現が多かった。しかし、以下のような記事も存在した。「文部省によると、九三年十月現在で、コンピューターが導入されていない都道府県立図書館は、六十六館中三十四館。ある職員は、「利用者から、まだコンピューターも導入していないのか、とあきれられることもあった。」」(1996年10月2日記事「読みたい本、すぐに出します 県図書館、ついに電子化」)。すでに図書館にコンピューターが導入されている事は一般的であったと考えられる。

1995年～2012年の期間では「コンピューター」の出現回数は2回にとどまった。コンピューターシステムからの情報流出の記事であった(20120年12月1日「図書館利用者の個人情報、2971人分が流出」)。「コンピューター」ではなく、「パソコン」を使う記事もあるが、システム導入の話ではなかった。コンピューターの導入はほぼ終わってお

¹⁴ 「国立国会図書館」「公立図書館」二つの語は館種による分類で「<type>国立国会図書館</type>」といったタグでつけたものも数えた。

り、新聞に取り上げるものではなくなったと考えられる。

- ・「建設」は経年的に減少している。全体的に図書館の建設に関する話が減少した。また、公立や県立、市立など一般の人々がよく利用される図書館の出現頻度が高くなっていく傾向が見られる。

朝日新聞各期間頻出50語リスト					
1985年～1994年		1995年～2003年		2004年～2012年	
抽出語	出現回数	抽出語	出現回数	抽出語	出現回数
図書館	472	図書館	489	図書館	427
利用	152	本	176	本	188
本	113	利用	151	利用	120
図書	86	図書	94	公立図書館	105
資料	85	公立図書館	89	地方	79
蔵書	61	子ども	82	市	59
公立図書館	60	貸出	82	蔵書	59
国立国会図書館	60	開館	72	貸出	59
人	54	児童	72	開館	57
司書	52	話す	61	県立図書館	56
子ども	52	市民	58	写真	56
貸出	52	東京	57	図書	52
東京	52	人	55	読む	52
開館	48	蔵書	55	情報	51
調査	47	写真	50	人	49
専門	44	サービス	48	市立図書館	46
部長	43	読む	48	開く	45
市民	42	出版	46	話す	45
文化	39	研究	43	資料	44
市	38	資料	43	展示	44
市立図書館	38	司書	42	説明	43
館長	37	国立国会図書館	40	子ども	40
情報	36	読書	40	市民	38
コンピューター	35	開く	39	コーナー	37
午後	35	市立図書館	39	絵本	37
国会図書館	35	館長	38	児童	37
出版	35	検索	38	午後	35
中央図書館	35	情報	38	県	34
建設	34	日本	38	全県	34
日本	34	県	35	読書	34
ほか	33	説明	35	文化	32
センター	33	関西	34	問い合わせ	32
開く	33	職員	33	学生	30
問題	32	町立図書館	33	検索	30
話す	32	県立図書館	32	雑誌	30
コーナー	31	多い	32	ほか	29
学校	31	大学	32	サービス	28
サービス	30	予定	32	施設	28
一般	30	建設	31	同市	28
閲覧	29	県内	31	管理	27
前	29	借りる	31	東京	27
全国	29	コンピューター	30	同館	27
読書	29	閲覧	30	無料	27
出る	28	関係	30	閲覧	26
人事	28	活動	29	企画	26
現在	27	見る	29	新聞	26
社会	27	市	29	中央図書館	26
収集	27	中央図書館	29	一般	25
多い	27	一般	28	研究	25
大阪	27	作品	28	参加	25

表 9 朝日新聞各期間頻出 50 語リスト

5.2.2.2 日本経済新聞に現れる語の経年変化

表 10 は朝日新聞における各期間の頻出 50 語のリストである。以下に各語の出現頻度の経年変化について述べる。

- ・「国立国会図書館」は経年的に減少した。それに対して「公立図書館」は増加した。
- ・「システム」は経年的に減少した。1985 年～1994 年の期間では、システムの導入、稼働、開発、設計の記事が多かった（主にネットワークシステム）。実際の記事では、「熊本県立図書館、書誌検索システム作る—10 月稼働へ準備、まず 20 万冊処理」（1985 年 7 月 31 日）、「リコー、大学の事務・図書館情報管理—WS 使いシステム」（1993 年 9 月 9 日）といったものがあった。1995 年～2003 年の期間ではシステムの構築、開発も多かったが、「検索システム」、「教育システム」「情報システム」などの記事がある。図書館システムが多様化にしたと考えられる。具体的な記事としては、「法科大学ネットで充実、早大などシステム開発、判例の電子図書館、予復習も双方向」（2002 年 10 月 1 日）といったものがあった。2004 年～2012 年の期間ではシステムの運営、システム一元化などの記事があった。実際の記事としては「学事や図書館のシステム一元化、関大、パスワード 1 つに」（2009 年 8 月 1 日）といった記事があった。

「コンピューター」は 1985 年～1994 年の期間で出現頻度が高かった。その後は頻出 50 語リストに現れなくなった。この期間では「コンピューターシステム」、「コンピューター導入」といった表現がよく使われていた。

- ・「建設」は 1995 年～2003 年の期間で減少したが、2004 年～2012 年の期間でまた增加了。朝日新聞とは異なる傾向が見られた。

日本経済新聞各期間頻出50語リスト					
1985年～1994年		1995年～2003年		2004年～2012年	
抽出語	出現回数	抽出語	出現回数	抽出語	出現回数
図書館	453	図書館	472	図書館	485
利用	112	本	138	利用	113
国立国会図書館	103	利用	131	本	100
資料	99	公立図書館	80	情報	92
本	98	資料	75	公立図書館	82
システム	87	情報	67	東京	66
建設	81	貸出	59	貸出	65
情報	71	東京	59	図書	64
蔵書	70	国立国会図書館	57	サービス	63
図書	65	調査	56	蔵書	56
調査	62	蔵書	55	資料	55
計画	60	サービス	54	閲覧	51
公立図書館	58	施設	45	写真	50
出版	55	計画	42	書籍	48
施設	53	出版	41	検索	46
予定	52	人	40	始める	43
県	51	電子図書館	40	人	43
貸出	51	システム	38	ほか	42
東京	50	公開	37	建設	42
日本	50	開く	36	県立図書館	40
国会図書館	46	開館	36	開館	37
多い	46	研究	36	活動	37
ほか	45	図書	36	市	37
県立図書館	44	日本	36	文化	37
開館	43	閲覧	34	大学	35
部長	43	関係	34	日本	35
検索	42	全国	34	午後	34
センター	41	県立図書館	32	国立国会図書館	34
完成	41	事業	32	市立図書館	34
文化	40	インターネット	31	地域	34
研究	39	絵本	31	一般	33
全国	39	購入	31	ネット	32
中央図書館	38	写真	30	子ども	32
管理	37	ネット	29	時間	32
検討	37	一般	29	職員	32
保存	36	国会図書館	29	大学図書館	32
コンピューター	35	子ども	29	活用	31
ネットワーク	35	予定	29	企業	31
会議	35	建設	28	支援	31
ソフト	34	検索	28	施設	31
現在	34	地域	28	増える	31
面積	34	市立図書館	26	システム	30
収集	33	充実	26	提供	30
関係	32	増える	26	公開	29
漫画	32	大阪	26	雑誌	28
開く	31	無料	26	読む	28
人	30	市	25	インターネット	27
設置	30	借りる	25	使う	27
大学	30	書籍	25	市立	27
ビデオ	29	設置	25	全国	27

表 10 日本経済新聞各期間頻出50語リスト

5.2.2.3 図書館雑誌に現れる語の経年変化

表 11 は図書館雑誌における各期間の頻出 50 語のリストである。以下に各語の出現頻度の経年変化について述べる。

- ・「著作権」は年を経るごとに増加した。2004 年～2012 年の期間では「著作権問題」「著作権法改正」についてのタイトルが多かった。これは 2012 年 6 月成立した「著作権法の一部を改正する法律」の影響と思われる。
- ・「子ども」は 1995 年～2003 年の期間で増加したが、その後減少した。これは「子どもの読書活動の推進」の影響と考えられ、朝日新聞と同じ傾向が見られる。
- ・「司書」は年を経るごとに増加した。司書養成、認定司書制度、学校司書の配置についてのタイトルが多く占められていた。1997 年学校図書館法の一部改正により、「学校には、学校図書館の専門的職務を掌らせるため、司書教諭をおかなければならない。」(学校図書館法第 5 条) と決められた。その後図書館の司書養成が検討の話題になったと考えられる。また、2006 年 7 月に設置した「これから図書館の在り方検討協力者会議」では「司書養成に関する議論」を行った。「主に大学における司書養成及び司書講習の在り方について、委員及び図書館関係者、大学関係者より意見を聴取するとともに、意見交換を行ってきた。」[10]

この事の影響もあると考えられる。

- ・「ネットワーク」は 2004 年～2012 年の期間で頻出 50 語に現れなくなった。1995 年～2003 年の期間のタイトルでは「図書館ネットワーク」、「ネットワーク構築」「総合目録ネットワーク」といったタイトルで使われていた。
- ・「国立国会図書館」は年を経るごとに増加した。それぞれの期間の出現回数は 6、17、33 であった。2004 年～2012 年の期間では国立国会図書館に関する特集「国立国会図書館の現在を知る」(2006 年 11 月)、「前進しつづける国立国会図書館」(2012 年 7 月) といったものもあった。これは新聞記事と異なる傾向が見られる。

図書館雑誌各期間頻出50語リスト					
1985年～1994年		1995年～2003年		2004年～2012年	
抽出語	出現回数	抽出語	出現回数	抽出語	出現回数
図書館	464	図書館	622	図書館	600
特集	119	特集	142	特集	165
サービス	87	サービス	124	サービス	137
問題	81	資料	90	情報	125
資料	76	大学図書館	90	大会	99
利用	70	大会	87	参加	71
大学図書館	59	利用	71	大学図書館	71
大会	49	情報	64	教育	64
考える	45	学校図書館	63	学校図書館	62
職員	45	全国	52	全国	59
学校図書館	44	公共図書館	50	資料	58
情報	41	参加	50	制度	57
自由	37	問題	50	利用	49
現状	36	教育	46	司書	48
児童	35	考える	45	読書	47
図書	35	子ども	41	活動	46
公共図書館	34	活動	40	考える	45
活動	30	現状	39	委員	42
保存	30	課題	38	公共図書館	41
教育	29	職員	37	自由	41
専門図書館	29	出版	36	分科	41
全国	29	ネットワーク	34	著作権	37
出版	26	保存	34	管理	36
本	26	自由	33	報告	34
課題	25	読書	33	国立国会図書館	33
ネットワーク	24	児童	30	支援	32
子ども	23	短大	30	専門	32
障碍者	23	著作権	30	文化	32
学習	22	高専	28	取り組み	31
求める	21	協力	27	専門図書館	30
市立図書館	21	司書	27	県立図書館	29
振興	21	世紀	27	地域	29
委託	20	障碍者	26	保存	29
生涯	20	専門図書館	26	養成	29
短大	20	インターネット	25	指定	28
中心	20	研修	24	出版	28
平和	20	を目指す	24	向ける	27
高専	19	養成	24	障碍者	27
調査	19	専門	23	提供	27
日本	19	本	23	課題	26
研究	18	流通	23	現状	26
国際	18	報告	22	児童	26
時代	18	システム	21	評価	26
場合	18	県立図書館	21	子ども	25
読書	18	図書	21	職員	25
文化	18	ボランティア	20	大学	25
いま	16	事例	20	日本図書館協会	25
研修	16	青少年	20	部会	24
貸出	16	大学	20	本	24
地域	16	地域	19	電子	22

表 11 図書館雑誌各期間頻出 50 語リスト

5.2.3 新聞記事の頻出語のクラスター分析

新聞記事で頻出語の出現するパターンを把握するため、階層的クラスター分析を行った。集計単位について、新聞記事は1記事を単位とする。語の最小出現数は30に設定し、最大出現数を100に設定した。最小文書数（記事数、特集数）を3に設定した。用いる品詞は名詞（漢字を含む2文字以上の語、漢字1文字の語、サ変接続、形容動詞語幹、固有名詞、ナイ形容詞語幹）、タグ、形容詞、動詞、副詞である¹⁵。

抽出するクラスターの中で主題が見られたクラスターだけ説明し、特に一つの主題について話していないクラスターの解釈については今後の課題としたい。また、図書館雑誌については、特集のタイトルのみ使っているので、ひとつの特集の語のクラスターは見られないため、本研究では分析しないことにした。

5.2.3.1 朝日新聞の各期間における頻出語のクラスター分析

第1期間

朝日新聞1985年～1994年の期間で、設定の最小出現数30と品詞による選択の設定で分類される語の数は34である。出力される語のクラスター数は6個である。

クラスター	抽出される語
1	専門、調査、部長、国会図書館、国立国会図書館
2	司書、学校
3	市、センター、建設
4	市民、コンピューター、公立図書館、市立図書館、図書、貸出、蔵書
5	情報、出版、サービス、問題
6	子ども、開館、館長、話す、資料、人、コーナー、一般、東京、文化、日本、中央図書館、開く

表 12 朝日新聞1985年～1994年の頻出語のクラスター

クラスター1は国立国会図書館の人事に関するクラスターと考えられる。実際の記事では「国立国会図書館人事」（1986年11月1日）の中で、「専門調査部長」「専門調査員」といった表現が使われている。

クラスター2は学校図書館司書に関するクラスターである。実際の記事では「学校図書室に「司書教諭」を 図書館協議会が陳情」（1987年2月16日）、「学校図書館の司書、配置53% フェス実行委アンケート調査」（1993年11月3日）といったものがあった。

クラスター3は「市」「センター」「建設」によって構成されている。図書館の建設に関する

¹⁵ 茶筅の出力における品詞名。出力されたデンドログラムは付録におく。

るものと考えられる。例えば、「建設中のビルを三鷹市が買収 バブル崩壊で格安に 図書館などに利用」(1992年6月3日)といった記事があった。

クラスター4は図書館の電算化に関するものと考えられる。図書館の電算化により、市民が蔵書検索や貸出業務など便利に使えるといった記事であった。実際には、「図書館情報大学、コンピューターで蔵書をスピード管理化」(1986年8月7日)などの記事があった。

クラスター5は特に明確な主題は見られなかった。実際の記事では「電子図書館「EL」10日にサービス開始」(1987年11月4日)といったものがある。

クラスター6は図書館の開館や図書館活動といった主題に関するものと考えられる。実際の記事では、「おもちゃで発育手助け 川越の児童園、「図書館」開館へ」(1988年9月1日)、「1日開幕、堺市中央図書館で人権図書展」(1991年12月1日)といったものがあった。

第2期間

朝日新聞1995年～2003年の期間で、設定の最小出現数30と品詞による選択の設定で分類される語の数は41である。出力されたクラスター数は6個である。

クラスター	抽出される語
1	人、話す、写真、説明
2	市立図書館、読む、読書、子ども、児童
3	県立図書館、県、館長、町立図書館、貸出、借りる、蔵書、図書、公立図書館、司書、職員、サービス、県内、多い
4	関西、国立国会図書館
5	情報、研究、関係、資料、開館、出版、予定、東京、開く
6	閲覧、コンピューター、検索、大学、日本、市民、建設

表13 朝日新聞1995年～2003年の頻出語のクラスター

クラスター1は記事の中で人の言葉の引用と記事後の写真説明である。図書館に関するクラスターではない。

クラスター2は「市立図書館」「読む」「読書」「子ども」「児童」による構成されている。この期間では子どもの読書活動が注目されるため、このクラスターがあると考えられる。実際の記事では「図書館において子どもたち、ずらり絵本の表紙、新任職員が街へ」(1998年1月6日)といったものがあった。

クラスター3は公共図書館の一般サービスに関するものと考えられる。実際の記事としては「蔵書100万冊OK、地域コンソーシアム図書館開始」(2001年10月2日)といったものがあった。

クラスター4は国立国会図書館の関西館に関する記事である。国会図書館関西館は2002年10月開館する際に、その建設計画、起工式など、注目を集めた。実際の記事では、「新たに2つの国会図書館、本館とひと味違う構想で、東京と京都で」(1995年1月7日)といったものがあった。

クラスター5、6は特に明確な主題が見られなかった。

第3期間

朝日新聞2004年～2012年の期間で、設定の最小出現数30と品詞による選択の設定で分類される語の数は41である。出力されるクラスター数は5個である。

クラスター	抽出される語
1	図書、人、検索、情報、県立図書館
2	コーナー、展示、資料、雑誌、学生、県
3	読書、読む、子ども、絵本、児童
4	地方、全県、問い合わせ、話す、写真、説明、文化、開く
5	貸出、蔵書、開館、市立図書館、市民、市

表14 朝日新聞2004年～2012年の頻出語のクラスター

クラスター1は特に明確な主題が見られなかった。

クラスター2は図書館のサービスの提供に関するものと考えられる。実際の記事では、「作家・高見順氏の原稿や初版本展示、11日まで県立図書館」(2005年9月2日)といったものがあった。

クラスター3は子ども読書に関するものである。1995年～2003年までの期間と同じクラスターが見られる。「子ども読書推進活動」の影響で、子ども読書に関する問題はまた話題になっている。

クラスター4、5は特に明確な主題が見られなかった。

この期間では「コンピューター」「検索」など図書館の電算化に関するクラスターがなくなりた。

5.2.3.2 日本経済新聞の各期間における頻出語のクラスター分析

第1期間

日本経済新聞1985年～1994年の期間で、設定の最小出現数30と品詞による選択の設定で分類される語の数は44である。出力されるクラスター数は7個である。

クラスター	抽出される語
1	中央図書館、開館、蔵書、公立図書館
2	計画、面積、建設、予定、完成、センター、文化、施設
3	コンピューター、情報、ネットワーク、管理、検索、システム、貸出
4	県立図書館、県、全国、設置、漫画、検討、会議
5	部長、図書、資料、調査
6	ソフト、研究、関係、保存、収集
7	日本、多い、開く、国会図書館、東京、大学、出版、本、人

表 15 日本経済新聞 1985 年～1994 年の頻出語のクラスター

クラスター1 は図書館の新館開館、図書館の蔵書についての記事である。「公立図書館」は館種による分類でタグでつけられたものである。

クラスター2 は図書館建設、図書館設備に関するものと考えられる。実際の記事では、「新県立図書館、自然科学館周辺に内定—新潟県、年度内に基本計画策定」(1998年3月6日)といったものがあった。

クラスター3 は図書館の検索システム、電算化に関するものと考えられる。実際の記事では、「東北大、図書館オンライン完成—内外の約 500 万件検索」(1987年12月8日)といったものがあった。

クラスター4 は県立図書館の整備に関する検討会議や子どもの読書意欲を引き出すため漫画の導入に関する検討会議という主題が見られた。

クラスター5 は国立国会図書館の人事に関するクラスターである。

クラスター6、7 は特に明確な主題は見られなかった。

この期間で注目するクラスターは図書館建設に関する主題と図書館の電算化に関する主題である。

第 2 期間

日本経済新聞 1995 年～2003 年の期間で、設定の最小出現数 30 と品詞による選択の設定で分類される語の数は 30 である。出力されるクラスター数は 5 個である。

クラスター	抽出される語
1	出版、購入、関係、研究、日本
2	公開、資料、インターネット、システム、電子図書館
3	絵本、開館、閲覧、事業、調査、国立国会図書館
4	図書、県立図書館、公立図書館、蔵書、サービス、情報、計画
5	施設、開く、写真、人、全国、貸出、東京

表 16 日本経済新聞 1995 年～2003 年の頻出語のクラスター

クラスター1 では「出版」「購入」は図書館の経費に関する問題（選書問題）が抽出された。実際の記事としては「大量購入で論争続く、話題本巡り図書館と著作者」（2002 年 6 月 2 日）などのものが挙げられる。「関係」「研究」「日本」は特定の主題は見られなかった。

クラスター2 は「公開」「資料」「インターネット」「システム」「電子図書館」によって構成されている。このクラスターは図書館の電算化のクラスターと考えられる。図書館の資料をインターネットで公開するというクラスターが見られる。実際の記事では「第 145 話 読書の風景（4）電子図書館パソコンで閲覧」（1999 年 10 月 5 日）の中でこういった表現があった。

クラスター3、4、5 は特に明確な主題は見られなかった。

第 3 期間

日本経済新聞 2004 年～2012 年の期間で、設定の最小出現数 30 と品詞による選択の設定で分類される語の数は 30 である。出力されるクラスター数は 6 個である。

クラスター	抽出される語
1	増える、貸出、本、資料、図書、東京
2	企業、建設、施設、職員、市立図書館、市、一般、人、県立図書館、開館、写真、公立図書館
3	サービス、始める、検索、書籍、蔵書
4	ネット、日本、閲覧、国立国会図書館
5	システム、大学、大学図書館
6	子ども、活動、文化、地域、活用、提供、情報、支援

表 17 日本経済新聞 2004 年～2012 年の頻出語のクラスター

クラスター1は図書館の所蔵、貸出などの基本機能のクラスターが見られる。実際の記事としては「図書館が宅配貸出」(2005年12月1日)、「図書館の貸出数最多5.4冊、10年度1人平均、開館時間拡大など」(2012年11月1日)などがあった。

クラスター2は図書館の建設に関するものと考えられる。実際の記事としては「甲府駅北口、IT拠点を一時凍結、図書館は建設一開発企業、意欲低く」(2009年2月3日)といったものがあった。

クラスター3は図書館に関する新しいサービスの紹介に見られるパターンである。「米ネット、書籍電子化競う—アマゾン、ページ単位で販売、MS、大英図書館と提携」(2005年11月4日)「6大学の蔵書、区立図書館で閲覧OK、豊島区がサービス、対象150万冊に」(2009年10月1日)などの記事が挙げられる。

クラスター4は特に明確な主題は見られなかった。

クラスター5は大学の図書館システムに関するものと考えられる。実際の記事としては「学事や図書館のシステム一元化、関大、パスワード一つに」(2009年8月1日)といったものがあった(大学図書館のシステムに関する記事は一記事のみ)。

クラスター6は子どもの読書活動に関するものと考えられる。2001年に出された「子どもの読書活動の推進に関する法律」の影響だと考えられる。

5.2.3.4まとめ

朝日新聞で3つの期間の傾向を分析すると、1985年～2003年の期間では、図書館の電算化に関する語のクラスターが抽出された。また、1995年以降子どもの読書活動が重要視され、子どもの読書に関するクラスターもみられる。1995年～2003年の期間では国立国会図書館関西館の建設で、図書館の建設に関する語のクラスターも抽出された。2004年～2012年までの期間では「コーナー」「展示」「資料」といったクラスターが抽出され、図書館サービスの提供に関する語が増えている。これは一般の利用者が気軽に図書館を利用できるように展示会や講演会などが多く開かれたことが原因と考えられる。

日本経済新聞では1985年～2003年の期間では図書館の電算化に関するクラスターがみられた。その後このようなクラスターはみられなくなった。また、1985年～1994年の期間では図書館建設に関する語のクラスターがあった。1995年～2003年の期間では図書館建設に関する記事は減少したが、2004年～2012年では図書館建設に見られるクラスターがあった。また、同じ期間に子どもの読書活動についてのクラスターもあった。1995年～2003年にこのようなクラスターはみられなかつたが、これは「子どもの読書活動の推進に関する法律」の影響だと考えてよいであろう。

5.2.4 新聞記事と図書館雑誌の「図書館」周辺の語

本研究の調査対象である図書館は文章の中でどのように扱われているか、どんな図書館がよく記事で取り上げられているかを調べるために、「図書館」という語の出現する文脈を調べた。具体的には「図書館」の直前と直後によく出現する 5 語を調べ、スコア¹⁶の高い 20 位を抽出した。

5.2.4.1 朝日新聞「図書館」前後 5 語

	1985 年－1994 年		1995 年－2003 年		2004 年－2012 年	
	抽出語	スコア	抽出語	スコア	抽出語	スコア
1	市民	12.07	市民	14.87	利用	12.72
2	付属	12.00	利用	14.15	県	12.20
3	利用	9.07	県	10.28	付属	10.00
4	協力	9.03	日比谷	8.50	本	9.75
5	私立	7.33	日本	7.37	市民	7.87
6	図書館	6.13	児童	7.08	山口	6.17
7	日比谷	6.00	付属	7.00	建設	5.50
8	地域	5.58	本	6.65	萩 ¹⁷	5.20
9	アジア	5.40	総合	6.50	市	4.70
10	点字	5.00	都立	6.50	開館	4.25
11	東部	5.00	多摩	6.45	市立	4.20
12	農村	5.00	蔵書	6.05	洲本	4.20
13	職員	5.00	奈良	6.03	全国	4.03
14	都立	4.73	開館	6.02	記念	4.00
15	運動	4.70	研究	5.40	県立	4.00
16	建設	4.50	地域	5.37	市立	3.87
17	設立	4.50	建設	5.25	萩	3.70
18	上野	4.25	関係	5.20	蔵書	3.65
19	本	4.13	スクエア	5.00	問い合わせ	3.33
20	市	4.12	ミニ	5.00	オープン	3.28

表 18 朝日新聞「図書館」前後 5 語¹⁸

¹⁶ スコアは語の前後出現する回数と位置によって算出したものである。これは KH Coder によって算出を行った。

¹⁷ 2004 年～2012 年「萩」は 2 回出現したが、これは KH Coder に内装している形態素解析茶筅の出力における品詞名が異なるためである。1 回目の「萩」の品詞は「名詞－一般（漢字 1 文字の語）」である。2 回目に出現する「萩」の品詞は「名詞－固有名詞－地域」である。

第1期間

- ・「協力」は図書館の間の相互協力の記事で出現するように見えるが、すべて図書館人事（図書館協力部長）に関する記事で出現した。
- ・「地域」「点字」「農村」「運動」といった言葉は朝日新聞の弱者救済思考の反映だと考えられる。「農村」「運動」に関する記事は多摩農村図書館の前身である私立鶴川図書館のことである。これらの語が出現した記事として、「図書館運動支え 50 年 東京・町田の私立鶴川図書館」（1989年2月2日）などがあった。
- ・「アジア」は1992年大阪のアジア図書館の設立に関する記事で出現した。この語が出現した記事としては「寄贈 35000 冊分の電算機登録終わる、「アジア図書館」設立へ向け」（1992年2月1日）、「アジアの資料、役立てて、関西初の専門図書館が 6 日オープン」（1992年5月2日）などがあった。
- ・「建設」はほとんど新しい図書館建設に関する記事で出現した。この語が出現した記事では「市内に 100 図書館を、市民グループが構想発表」（1989年1月15日）、「中央図書館、旧庁舎では反対、埼玉・鶴ヶ島の「考える会」」（1990年9月8日）などがあった。
- ・「日比谷」は主に日比谷図書館が利用者の秘密について作家に抗議した事に関する記事で出現した。この語が出現した記事として、「利用者の秘密を守ってます」作家の典厩さんに図書館が抗議」（1987年6月26日）などがあった。記事では、以下のように書かれている。

「日本図書館協会によると、昨年、事件捜査に絡んで、国立国会図書館や岐阜県の各務原市立図書館で、令状がないのに警察官に利用記録を見せたケースが相次ぎ、ミスを繰り返さないよう「宣言」の徹底を図っていた。」

「図書館の自由に関する宣言」では図書館は「利用者の秘密を守る」と定めているが現状は厳しい。

日比谷図書館についての記事はそのほかにも、「東京都立日比谷図書館、工事で 2 カ月間休館」（1988年10月1日）などがあった。

第2期間

- ・「多摩」は法政大学多摩図書館や都立多摩図書館に関する記事で出現した。農村図書館として有名な私立南多摩農村図書館に関する記事は、1989年にすでに閉館されていたためか、存在しなかった。この語が出現した記事として、「大学図書館へ行ってみよう！目的意識持った利用を」（1998年8月1日）などがあった。
- ・「奈良」は主に県立奈良図書館と県立橿原図書館統合の記事に関する記事で出現した。この語が出現した記事では、「ネット駆使、世界にリンク、県教委が新県立図書館の基本計画」（2000年8月1日）があった。そのほかに、「三年後学研都市に開館、建設進む国立

¹⁸ 「図書館」前後の語に関して、「公立図書館」「大学図書館」「専門図書館」は複合語で抽出するため、「公立」「大学」「専門」などは「図書館」の前後 5 語として数えない。

国会図書館関西館：上」（1999年3月1日）という記事では奈良市にある「芸亭」が日本最初の図書館である事について言及していた。

- ・「蔵書」は図書館の蔵書管理、コンピューターシステム導入などの記事で多く出現した。この語が出現した記事では、「パソコンで蔵書検索、岡山市内5図書館、提供サービス」（1997年12月1日）、「県内20図書館の蔵書一斉検索が可能に、きょうから試験運用」（2002年3月1日）などがあった。

第3期間

- ・「山口」は主に山口図書館での展示会の記事で出現した。この語が出現した記事としては、「岩国ゆかりの宇野千代ら3作家の初版本展、きょうから、県立山口図書館」（2011年1月5日）などがあった。
- ・「萩」は新萩図書館に関する記事で出現した。この語が出現した記事としては「萩市新図書館に振興団が助成、維新史DB化に895万円」（2010年6月4日）、「地元文学者63人紹介、萩図書館、パネルや作品200冊超」（2012年2月2日）などがあった。
- ・「記念」は市立小幡記念図書館のことである。この語が出現した記事では、「アートスペース」一般にも無料開放、来月から小幡記念図書館」（2007年3月2日）、「500冊、持ち出しか、図書館の本、横領容疑者逮捕」（2011年7月1日）などがあった。
- ・「洲本」は洲本図書館に関する記事である。この語が出現した記事では、「米朝一門会や演奏会も、図書館市民まつり前に、多彩なイベント」（2011年10月1日）などがあった。

まとめ

- ・「地域」や「農村」が減ったのは町村立図書館の設置率が改善されたからとも考えられる。1990年から2011年町村立図書館設置率は、町立図書館設置率で25.2%から60.1%増え、村立図書館設置率で8.2%から25.0%まで向上した（平成23年度「社会教育調査」（文部科学省））。「平成の大合併¹⁹」により、例えば図書館のない村と図書館のある町が合併することで形式上図書館のない村が1つ減るといった、いわば消極的な理由で設置率が向上した面はあるかもしれないが、基本的にそのような差分は小さいと思われる。
- ・「地域」「点字」など弱者に関する話は減っている。朝日新聞の論調が変わった可能性を考えられるであろう。「点字」が減ったのはパソコンの普及で、音声で読める本が増えたためと考えられる。この語が出現した記事「携帯で朗読音声、点字図書館など配信」（2008年11月01日）では以下のように書かれている。

「著作権法が改正され、著作権法が改正され、昨年7月から視覚障害者向けのネット配信の条件が緩和されると、配信向けの録音図書数は1万2千点に増加。週刊誌の配信も可能になった。」

¹⁹平成の大合併は平成11年から政府主導で行われた市町村合併。平成17年前後に最も合併が行われる。（デジタル大辞泉による）

- ・「建設」に関して、頻出語における「建設」では減少したにもかかわらず、ここでは増加している。その理由としては、「建設」は「建設設計画」「建設予定」「建設費」といった表現で使われる事や単独で使われることが多く、「図書館」の前後 5 語として出現しなかったためと考えられる。

5.2.4.2 日本経済新聞「図書館」前後 5 語

	1985 年－1994 年		1995 年－2003 年		2004 年－2012 年	
	抽出語	スコア	抽出語	スコア	抽出語	スコア
1	協力	13.73	利用	12.03	利用	13.97
2	システム	11.63	一般	9.23	区立	12.95
3	利用	11.02	本	8.92	建設	11.03
4	情報	10.48	区立	7.75	市民	8.73
5	一般	6.08	サービス	5.40	一般	8.00
6	レーニン	6.00	貸出	5.38	情報	7.18
7	全国	5.67	英	5.00	千代田	7.00
8	ネットワーク	5.23	蔵書	4.95	市	5.68
9	職員	5.20	施設	4.90	市立	5.37
10	管理	5.00	運営	4.83	活用	5.25
11	議会	5.00	関係	4.82	大学	5.15
12	オープン	4.55	府立	4.67	総合	5.20
13	記念	4.50	設置	4.20	司書	4.28
14	建設	4.50	県内	4.17	閲覧	4.27
15	出版	4.45	付属	4.00	愛知	4.20
16	あずま	4.25	古代	3.83	英	4.20
17	夕陽丘	4.20	全国	3.45	行く	4.00
18	完成	4.10	帝国	3.33	付属	4.00
19	大連	4.00	情報	3.28	川崎	3.70
20	市	3.92	新しい	3.20	蔵書	3.67

表 19 日本経済新聞前後 5 語

第 1 期間

- ・「協力」は図書館人事に関する記事で出現した（図書館協力部）。
- ・「システム」は「ネットワークシステム」「管理システム」「図書館システム」といった表現が多く使われている。主にシステムの開発や稼働に関する記事である。この語が出現

した記事としては、「熊本県図書館、書誌検索システム作る—10月稼働へ準備、まず20万冊処理」(1985年7月31日)、「長野の図書館システム、「1円落札」やり直し—富士通も加えて再入札」(1990年5月3日)などがあった。

- ・「レーニン」はレーニン図書館に関する記事で出現した。この語が出現した記事では「国会図書館で11日から、レーニン図書館の秘蔵資料を展示」(1991年4月6日)などがあった。記事ではレーニン図書館の所蔵貴重書籍やレーニン図書館について紹介した。
- ・「記念」は主に「新居浜市立別子銅山記念図書館」「友好記念図書館」に関する記事で出現した。この語が出現した記事では「新居浜市、別子銅山開坑300年、記念図書館が開館—市民の憩いの場に」(1992年10月4日)、「北九州市、大連友好都市15周年記念図書館が完成」(1994年12月13日)などがあった。
- ・「あずま」は東京墨田区立あずま図書館に関する記事で出現した。この語が出現した記事としては、「弱視や老人に“助っ人”、ふえてます拡大写本—図書館が続々整備」(1986年7月11日)などがあった。

第2期間

- ・「サービス」は主に図書館サービスのあり方や図書館サービスの向上に関する記事で出現した。この語が出現した記事としては「山梨県図書館大会が10月31日、同県上野原町の町民会館で開かれた」(1995年11月1日)、「本買えず図書館が悲鳴、サービス向上で打開を」(2001年6月10日)などがあった。
- ・「英」は大英図書館のことである。この語が出現した記事としては「大英図書館の秘蔵品」(1996年9月8日)があった。記事では、「大英図書館、秘蔵コレクションとその歴史」という本を紹介した。大英図書館に眠る書籍やパピルス、地図、レコードなどの材料を解説されている。
- ・「府立」は主に大阪府立中之島図書館や府立中央図書館に関する記事で出現した。この語が出現した記事では「大阪府立中之島図書館に代わり府下の中心的な図書館となる府立中央図書館が」(1996年5月2日)、「大阪府立中央図書館—アジアと日本の歴史的関係」(1997年12月1日)があった。その他に「図書館ネットで結ぶ、世界の文献検索、音声・点字に変換—大阪府が3カ年計画」などがあった。
- ・「古代」は古代図書館アレクサンドリア図書館のことである。この語が出現した記事としては、「エジプト、伝説の図書館来年復活、ハイテクも駆使—蔵書確保まだまだ」(1998年3月1日)などがあった。この記事は、古代アレクサンドリア図書館再建するプロジェクトについて紹介していた。そのほかに、「大英図書館の秘蔵品」(1996年9月8日)といった記事でアレクサンドリア図書館を触れていた。
- ・「設置」は図書館内の端末設置や茨城県内市町村図書館の低い設置率に関する記事で出現していた。この語が出現した記事としては「東京・葛飾区、小型図書館を整備—公共施設を利用」(1996年7月2日)、「図書館、設置率低レベル—利用冊数、都民の3分の

1」（1995年1月1日）などがあった。

第3期間

- ・「建設」は「図書館建設」に関する記事はこの期間で大幅に増加した。新館建設についての記事も多く見られた。この語が出現した記事では「外部から顧問委、立命館小建設計画、図書館3万冊収」（2005年1月7日）、「図書館建設など、11事業を見送り、名古屋、補正予算案」（2009年6月2日）などがあった。
- ・「市民」は「市民図書館」に関する記事で出現し、この期間で増加した。この語が出現した記事としては「図書館を拠点に地域の「語り部」一読み聞かせや朗読ボランティア」（2007年3月1日）、「高知で2図書館建て替え、県・市二重投資避け「合築」、機能残し建物一つ」（2010年10月1日）などがあった。
- ・「千代田」は千代田図書館に関する記事で出現した。この語が出現した記事としては「ネットで図書貸出、都・千代田図書館、本など電子化」（2007年11月3日）といったものである。記事では以下のように書かれている。

「千代田図書館によると、公共図書館が電子図書を貸し出すのは全国で初めてという。利用者は図書館へ行って現物の本を借りなくても、ネットを使って自宅やオフィスで電子図書を読める。」

千代田図書館に関しては、そのほかに、「震災関連の情報提供、図書館、特別コーナー設置、被災者の調べ物代行も」（2011年4月2日）といった記事があった。

- ・「活用」は「図書館活用ビジネスセミナー」「図書館活用講座」など図書館の活用についての記事がいくつかあった。この語が出現した記事では、「静岡県立中央図書館、図書館活用ビジネスセミナー」（2006年7月14日）といったものがある。また、「今どきの公立図書館一問題解決の知恵を貸す」（2008年4月23日）には以下のように書かれている。

「日本図書館協会の松岡要事務局長は「インターネットで得られない充実したコレクションの蓄積が図書館の強み。活用して個性的な支援を進めるのは今の潮流」と指摘する。」

現在図書館は役に立つという風潮に乗っていると言えるであろう。

- ・「閲覧」は1985年～2003年の期間では「図書館」の近くで出現しなかったが、この期間で増加した。例えば、「週刊文春、未出荷分を販売—各地の図書館、閲覧を検討」（2004年4月1日）、「6大学の蔵書、区立図書館で閲覧OK、豊島区がサービス、対象150万冊に」（2009年10月1日）のような記事があった。

また、記事「議論しやすく図書館進化、共同学習スペース登場、白板・PC完備、階ごとに用途分け」（2012年10月1日）では以下のように報道されている。

「文部科学省によると、入館や閲覧ができるなど、図書館を学外に開放している大学は9割以上にのぼる。」

現在、公共図書館と大学図書館の連携が多くなって、利用者が便利に図書館の資料を

利用できる。

- ・「愛知」は愛知県の田原市図書館が始めた移動図書館について紹介する記事で出現した。この語が出現した記事では「愛知・田原市の移動図書館快走、読書の喜び広がる、小学生に的、新刊を充実」(2007年6月5日)などがあった。この移動図書館の取り組みで田原市の小学校の貸し出し冊数は全国平均の2倍近い水準であった。そのほかに、「名古屋ボストン美術館、愛知県図書館、愛知県陶磁資料館、他」(2005年2月4日)、「愛知県図書館で置き引きの疑い、46歳男を逮捕」(2012年1月9日)などがあった。
- ・「英」は大英図書館や英国図書館に関する記事で出現した。この語が出現した記事としては「米ネット、書籍電子化競う—アマゾン、ページ単位で販売、MS、大英図書館と提携」(2005年11月4日)などがあった。このほかに、記事「国会図書館——議員の知恵袋、密会の場にも」(2004年11月18日)で主な国の国立図書館(英國図書館を含む)と蔵書数を触れた。

まとめ

- ・日本経済新聞の記事で図書館の「システム」「ネットワーク」といった表現は経年的に減少した。コンピューターが図書館に普及して、記事にするようなことではなくなったことが一因と思われる。
- ・2004年～2012年の期間で図書館をどう活用するかなどの記事が多く存在した。図書館の「ビジネス支援」「問題解決」の機能が重要視されている。また、図書館がサービスを提供している意識が重要になり、図書館は役に立つものであるという風潮に乗っていると考えてよいであろう。
- ・「建設」は2004年～2012年の期間で大幅に増加した。以前の方が図書館建設についての記事が多いと考えたが、図書館設置率の増えた現在でも図書館の新館建設がよく記事で取り上げられていることが分かった。

5.2.4.3 図書館雑誌「図書館」前後 5 語

	1985 年－1994 年		1995 年－2003 年		2004 年－2012 年	
	抽出語	スコア	抽出語	スコア	抽出語	スコア
1	大会	26.20	大会	53.03	大会	59.15
2	全国	25.50	全国	48.20	全国	55.00
3	利用	19.10	利用	28.95	サービス	26.08
4	高専	17.58	高専	27.58	教育	20.13
5	自由	15.98	サービス	23.05	—	20.00
6	図書館	15.20	特集	22.90	自由	19.83
7	特集	15.10	教育	19.78	図書館	19.20
8	職員	12.58	資料	17.10	高専	18.20
9	町村	12.20	町村	16.75	情報	17.58
10	—	10.12	図書館	15.93	特集	14.75
11	サービス	10.10	自由	14.37	利用	14.57
12	短大	10.03	短大	12.85	参加	13.18
13	情報	9.23	活動	12.78	評価	12.42
14	活動	8.83	養成	12.17	政策	12.40
15	問題	8.50	出版	11.68	職員	12.20
16	振興	7.58	区立	11.25	活動	9.90
17	養成	7.33	情報	11.17	出版	9.32
18	ネットワーク	6.65	参加	10.95	雑誌	8.73
19	資料	6.45	協力	10.43	分科	8.67
20	協会	6.37	ネットワーク	8.62	社会	8.08

表 20 図書館雑誌「図書館」前後 5 語

第 1 期間

- ・「サービス」は「異文化サービス」やサービスの在り方などについてのタイトルで多く出現した。例えば、「行革下,図書館サービスはどうなるか—東京都の事例を中心に」(1989 年 3 月)、「図書館での多文化サービスをするために—“IFLA 多文化社会図書館サービスのための指針”の視点」(1990 年 8 月)などの特集のタイトルがあった。
- ・「町村」は町村図書館の振興に関する特集のタイトルで多く出現した。例えば、「町村の図書館—作り方と活かし方」(1988 年 9 月)、「<町村図書館>地域の図書館に、学習機会の拡充を—町村図書館の新たな出発」(1993 年 2 月)などのタイトルがあった。
- ・「振興」は「図書館振興計画」「読書振興」「図書館法振興」といった表現が使われるタイ

トルで出現した。例えば、「図書館振興と国の施策をめぐって」(1990年7月)、「伊豆半島東部町村図書館振興の先駆け」(1992年3月)などの特集のタイトルがあった。

- ・「ネットワーク」は主に図書館ネットワーク構築や利用についての特集である。例えば、「図書館ネットワーク時代を迎えて」(1985年9月)、「<資料保存>図書館ネットワーク時代と資料保存—新たなる展開と広がりを求めて」(1993年2月)などの特集のタイトルがあった。

第2期間

- ・「サービス」はこの期間にスコアが大幅に増加した。主にサービスの多様化、サービス評価、サービスのあり方についての特集のタイトル多い。例えば、「多様な図書館サービスを一チェックリストの活用を通して」(1997年3月)、「<大学図書館>デジタル情報時代の図書館サービス」(2001年1月)、「図書館サービスの評価と指標—意義・動向・展望」(2002年11月)などの特集のタイトルがあった。
- ・「教育」は「図書館利用教育」が圧倒的に多く出現した。また図書館学教育に関する特集もあった。1985年～1994年の期間と比べると、図書館員向けの教育から利用者向けの「図書館教育」に転換したといえるであろう。例えば、「<図書館利用教育>利用者の自立をいかに支援するか」(1996年1月)、「<図書館利用教育>情報発信支援サービスの未来像」(2002年1月)などの特集のタイトルがあった。
- ・「協力」は図書館間相互協力や協力ネットワークなどについての特集のタイトルで多く出現した。例えば、このようなタイトルがあった。「東京都立図書館における協力事業と図書館情報ネットワーク」(1995年4月)、「国立国会図書館の図書館協力事業に寄せる期待—総合目録から電子図書館事業へ」(2003年7月)。
- ・「流通」は「図書館と出版流通」に関するタイトルで多く出現した。全国図書館大会の特集で毎回取り上げられている特集のタイトルである。

第3期間

- ・「サービス」は「図書館サービスの在り方」、「多文化社会図書館サービス」などの表現を使われているタイトルで多く出現した。1985年～2003年の期間では同じ傾向で使われていた。
- ・「評価」は「図書館評価」についてのタイトルで多く出現した。「図書館評価」はこの期間のみ図書館の関連語として出現する。図書館も自己評価が問われていると考えられる。具体的に、「神奈川県図書館協会図書館評価特別委員会の取り組み」(2008年8月)、「図書館評価をどう活用するか？—誰のための何のための図書館評価か」(2010年1月)などの特集のタイトルがあった。
- ・「雑誌」は「図書館雑誌創刊1000号」、「図書館雑誌」の表現を使われるタイトルで多く出現した。

- ・「教育」は「図書館学教育」、「図書館情報学教育」といったタイトルで多く出現した。1985年～1994年と同じように図書館員の教育に向けのタイトルが多い。例えば、「<図書館学教育>司書養成の制度と仕組みの再構」(2004年2月)、「<図書館学教育>図書館に関する科目的実施：直前の確認」(2012年1月)などの特集のタイトルがあった。
- ・「政策」は主に「図書館政策企画委員会」という表現を使われる特集のタイトルで多く出現した。全国図書館大会で取り上げられている特集のタイトルである。例えば、「<図書館政策企画委員会>図書館職員の専門性と階層化を考える」(2008年1月)、「<図書館政策>図書館法改正、教育振興基本計画と図書館振興を探る及び管理形態の多様化を検証する」(2008年12月)などの特集のタイトルで多く出現した。
- ・「参加」は主に全国図書館大会の特集で「全国図書館大会に参加して」などの特集のタイトルであった。

まとめ

- ・「町村」は2004年～2012年の期間で「町村図書館」という表現を使われているタイトルで出現しなかった。1985年～1994年の期間は町村図書館振興に関するタイトルが多く、1995年～2003年の期間は町村図書館の振興や町村図書館の建築に関する特集のタイトルが多く見られる。町村図書館や地域図書館に対する関心が低くなったと考えられる。
- ・「短大」は2004年～2012年の期間で減少した。1985年～1994年の期間は「短大・高専図書館」の特集があった。その後の期間で出現するのはほぼ全国図書館大会での「短大・高専図書館」に関する特集のタイトルである。
- ・「サービス」は徐々に増加した。主に図書館サービスの在り方、サービスの多様化の特集のタイトルで出現している。
- ・「教育」のスコアは徐々に増加している。1985年～1994年の期間では「図書館奉仕と図書館学教育」(1985年11月)、「21世紀への図書館学教育」(1987年2月)といった図書館員向けのタイトルが多く出現し、1995年～2003年の期間では利用者向けの「図書館利用教育」に関するタイトルで多く出現している。それに対して、2004年～2012年の期間になると「図書館学教育」、「図書館情報学教育」といった図書館員向けの教育に関するタイトルで出現する事が多い。「図書館雑誌」の読書対象者が図書館関係者であるため、図書館員向けの教育という言葉が使われる事が多いと考えられる。
- ・「評価」は2004年～2012年の期間のみ図書館の前後関連語として出てくる。「図書館評価」が図書館関係者に重要視されるようになったと考えられる。「教育」と「評価」の伸びは図書館の様々な側面における質向上を目指す現れと言える。

さて平成13年(2001年)7月「公立図書館の設置及び運営上の望ましい基準」(文部科学省公示第百三十二号)により、図書館サービスの計画的実施及び自己評価などの第2条を以下のように定めている。

「公立図書館は、各年度の図書館サービスの状況について、図書館協議会の協力を得

つつ、前項の「数値目標」の達成状況などに関し自ら点検及び評価を行うとともに、その結果を住民に公表するよう努めなければならない。」[11]

この基準が定められた事が原因で、図書館評価が盛んになったと考えられる。

6. 考察：仮説の検証

- (1) 以前は他の館種に関する記事が多かったが、現在は一般の人々向けの公立図書館の記事が増えている。

朝日新聞と日本経済新聞館種による分類では国会図書館に関する記事数が経年的に減少し、公立図書館に関する記事が経年的に増加していることが分かった。また、テキストマイニングでは両新聞の各期間における「国立国会図書館」「国会図書館」の出現回数は経年に減少した。逆に「公立図書館」は経年に増加した。公立図書館である「市立図書館」「県立図書館」「町立図書館」といった語の出現回数も両新聞で共に増加する傾向が見られる。ゆえにこの仮説は正しいといえる。

- (2) 以前は図書館の建物に関する記事が多かったが、現在は図書館の建物に関する電子図書館や資料の電子化、図書館の電算化といった記事が増えている。

図書館の建築に関して、朝日新聞では経的に減少する傾向が見られ、日本経済新聞では1995年～2003年の期間で一度減少したが、2004年～2012年の期間では増加していた。電子的な記事²⁰は両新聞で全体的に減少した。

両新聞の記事で共に1985年～1994年の期間で図書館建設に関する記事が多かった。

図書館の建築の規模については以下のものがある。

「1980年代後半から90年代後半まで、好景気と相まって、市町立図書館も含めて、図書館施設の規模が増大した。」[12]

実際の記事では「大阪・熊取町が図書館基本設計、町田では規模・蔵書数とも最高クラス」(朝日新聞1992年9月1日)、「公立で県内最大規模、雪に強く、美術館的役割も一長岡市中央図書館、夏に着工」(日本経済新聞1985年3月9日)などがあった。1995年以降の期間になると、朝日新聞では図書館施設の規模に関する記事は少なくなった。それに対して、日本経済新聞では図書館の建築に関する記事が多かった。「公共図書館」新築ラッシュ、利用者10倍の例も」(日本経済新聞1996年12月1日)、「県内最大の図書館、130万冊目標、400の閲覧席—千葉市が4月開館」(日本経済新聞2001年2月14日)といった記事があった。以上、朝日新聞では図書館の建物に関する記事が多かったが、その後は減少し、日本経済新聞では、図書館の建物に関する記事は以前と変わらず現在も多い。

図書館の電算化について、朝日新聞では頻出語として出現した「コンピューター」は経的に減少した。実際の記事の中で「コンピューター」はほぼ図書館の電算化に関する記事である。日本経済新聞では頻出語として出現した「システム」は経的に減少した。これは図書館のシステム導入、稼働、開発といった記事が多く、図書館の電算化に関する記事である。両新聞で共に図書館の電算化(ネットワークシステムの構築)に関する話は経的に減少する傾向が見られた。また、電子図書館については表21表22のように両新聞

²⁰ ここで述べている電子化とは図書館の電算化や資料の電子化、電子図書館といったものである。

共に 1995 年～2003 年の期間では増加し、2004 年～2012 年の期間では減少した。特に日本経済新聞では 1995 年～2003 年の期間では大幅に増加することが分かった。このことから図書館に関する電子的な話は増えているとはいはず、この仮説は正しいとはいえない。

	1985 年～1994 年	1995 年～2003 年	2004 年～2012 年
抽出語	出現回数	出現回数	出現回数
電算	6	5	0
電子	10	9	2
デジタル	1	4	13
電子図書館	1	14	5

表 21 朝日新聞記事の電子的な話に関する語の出現回数

	1985 年～1994 年	1995 年～2003 年	2004 年～2012 年
抽出語	出現回数	出現回数	出現回数
電算	7	1	0
電子	1	14	14
デジタル	3	14	14
電子図書館	1	40	4

表 22 日本経済新聞の電子的な話に関する語の出現回数

(3) 人々のニーズの多様化に対して、図書館の機能が多様になりつつある。即ち、図書館は様々なサービスを提供する場所になりつつあり、例えばビジネス支援などの課題解決サービスに関する記事が増えている。

図書館の基本機能である貸出サービスはよく記事で取り上げられている。両新聞共に「貸出」の出現率は上位にとどまっている。NDC010 番台による分類では「015 図書館奉仕・図書館活動」に分類された記事は経年的に増加していた。これは貸出などを含めて、図書館の利用法やサービスに関する記事と考えられる。頻出語からみると、朝日新聞では「サービス」の出現頻度が高く、日本経済新聞では「サービス」の出現回数が経年に増加している。また、「図書館雑誌」の特集のタイトルでも同じ傾向が見られる。「展示」「コーナー」「市民」「活動」など図書館活動に関する語の出現率が増加していた。図書館は図書を利用する場だけでなく、講演会や展示会特設コーナーなどが頻繁に開かれる。例えば、このような記事があった。「こどもの図書館、1周年記念講演、あす高知女子大」(朝日新聞 2000 年 12 月 1 日)、「軽井沢町立図書館、司馬氏テーマに講演」(日本経済新聞 1997 年 8 月 2 日)。

市民の要望に合わせて、開館時間の延長やネットで予約サービスなど、利用者が気軽に利用できる図書館にするように次々と新しいサービスが考える。例えば、この記事「サービスあれこれ、八ヶ岳大泉図書館の挑戦」(朝日新聞 1998年9月1日)があった。しかし、図書館に対して、利用者からサービス低下を声もある。記事「東京都、財政難につき図書館しわ寄せ、出版業界や利用者」(朝日新聞 2001年11月2日)では、図書館経営の困難と利用者減少、サービス低下について報道していた。

図書館の課題解決サービスについて、文部省が「これから図書館像」で「図書館政策の在り方」についてこのように書かれている。「これから図書館を発展させる方法として、次のような取り組みが考えられる (1) … (3) 図書館が地域の課題解決や調査研究を支援できるようにサービスや運営を改革する。」図書館の課題解決支援サービスがこれから図書館のサービスの一部と考えられる。表23によると、新聞記事では「ビジネス支援」についての記事が増加する傾向が見られる。また、「図書館雑誌」にも取り上げられている。例えば、「<図書館政策企画委員会>新しいステップへ：公共図書館におけるビジネス支援サービス」(2008年1月)などの特集のタイトルがある。表24によると、図書館に関する記事やタイトルで「支援」の出現頻度は近年増加している。図書館の支援サービス「読書支援」「情報支援」「子育て支援」などが提唱されている。日本経済新聞と図書館雑誌で2004年～2012年の期間で「支援」が頻出50語に出現する。

ただし、両新聞の記事では共に「課題解決」という表現は用いられておらず。「図書館雑誌」のタイトルでも一回しか用いられていない。「課題解決」という言葉自体は今後用いられていくとも考えられる。

以上から、この仮説は正しいといえるであろう。

	1985年～1994年	1995年～2003年	2004年～2012年
新聞紙	出現回数	出現回数	出現回数
朝日新聞	0	0	5
日本経済新聞	0	3	6
図書館雑誌	0	4	3

表23 新聞記事と図書館雑誌で「ビジネス支援」の各期間出現回数

	1985年～1994年	1995年～2003年	2004年～2012年
新聞紙	出現回数	出現回数	出現回数
朝日新聞	4	7	20
日本経済新聞	8	8	31
図書館雑誌	0	7	32

表 24 新聞記事と図書館雑誌で「支援」の各期間出現回数

(4) 漫画に対する関心の高まりと共に、漫画に関する記事が増えている。

漫画への関心が増えていると考え、「漫画」の出現回数を調べた。以下の表 25²¹のようである。朝日新聞では 1995 年～2003 年の期間で大幅に増加したが、その後減少した。日本経済新聞と図書館雑誌では共に減少したことが分かった。現状では大体の公立図書館は漫画をおかげ、実際の記事で出た「漫画」は「まんが図書館」「漫画専門図書館」といった表現が多い。「貸出OK、まんが図書館、公立で初、無料で」(朝日新聞 1997 年 5 月 1 日) のような記事があった。また、特例として図書館で漫画読める記事が散見される。朝日新聞記事「人口 3 万人以上の町で貸出数が全国一、広陵町立図書館」(2002 年 7 月 3 日)、中では貸出数が高い一つの要因としては「手塚治虫さんの漫画などが一巡した」と書かれている。また、日本経済新聞で「漫画も読める学校図書館一文部省が検討会議、読書離れ歯止めを」(1994 年 1 月 4 日) といった記事があった。以上から、図書館に関する記事やタイトルで「漫画」を使われる表現は全体的に少なく、そして減少する傾向であり、この仮説は正しいとはいえない。

	1985年～1994年	1995年～2003年	2004年～2012年
	出現回数	出現回数	出現回数
朝日新聞	2	35	10
日本経済新聞	34	11	11
図書館雑誌	17	2	0

表 25 新聞記事と図書館雑誌で「漫画」の各期間出現回数

²¹ ここで計算する「漫画」の出現回数は、表現で「漫画」「まんが」「マンガ」「コミック」四つの語の合計出現回数である。

(5) 図書館に関するプライバシーの問題が重要視され、また著作権に関する記事が増えて
いる。

表 26 は新聞記事と図書館雑誌で「プライバシー」の各期間の出現回数である。図のように新聞記事と図書館雑誌共に 1995 年～2003 年の期間で出現回数が一番多かった。この期間で、新聞記事では、「福岡市ネット実験、きょうから、個人情報保護「鍵」は暗号——まづ図書館の本予約」(日本経済新聞 1998 年 10 月 3 日)、「何を読むかは子どもの秘密、学校図書館、貸出無記名に」(朝日新聞 1996 年 12 月 1 日)などの記事があった。図書館雑誌では「利用者のプライバシー保護を検証する」(1999 年 11 月)の特集があった。

利用者個人情報を守る問題はしばしば問題になっている。日本経済新聞記事「協会調べ、公立図書館の 1 割、利用者情報を警察に」(1996 年 11 月 14 日)ではこのような報道がある。

「警察が全国の公立図書館に任意で利用者カードの照会などを求めてきたケースに対し、約一〇%の館が直ちに調査して回答していた…利用者のプライバシーを無視した安易な捜査協力が行われている実態が明らかになった。」

また、朝日新聞記事「図書館利用者の個人情報、2971 人分が流出」(2010 年 12 月 1 日)といったものがあった。

新聞記事や図書館雑誌で近年「個人情報」に関するものが増加した。図書館雑誌では「個人情報保護と図書館」(2005 年 8 月)といった特集があった。図書館に関するプライバシーの問題が重要視されることがいえるであろう。

	1985 年～1994 年	1995 年～2003 年	2004 年～2012 年
	出現回数	出現回数	出現回数
朝日新聞	0	8	1
日本経済新聞	2	4	1
図書館雑誌	2	7	2

表 26 新聞記事と図書館雑誌で「プライバシー」の各期間出現回数

表 27 によると新聞記事と図書館雑誌で共に「著作権」を使われる出現頻度は経年に増加した。電子出版物の著作権問題、著作権保護などに関する記事やタイトルが多かった。著作権が問題になることで、2012 年 6 月に成立した「著作権法の一部を改正する法律」が出たと考えられる。例えば、朝日新聞の記事「電子図書館計画、逆風も」(2009 年 9 月 1 日)ではグーグルブックスの著作権侵害問題を取り上げた。日本経済新聞「図書館でビデオ上映、著作権法違反? —— 頒布権基にクレーム、「公の上映」で反論」(1995 年 7 月 11 日)などの記事があった。

図書館雑誌では 1985 年～2003 年の期間では「著作権と図書館をめぐって」(1989 年 12

月)、「図書館と著作権法のこれからを考える」(2002年6月)などいくつかの「著作権」に関する特集が取り上げた。また、2004年～2012年の期間では「全国図書館大会ハイライト」で毎回取り上げるタイトルになっている。著作権問題が重要視されているといえるであろう。

以上、新聞記事と図書館雑誌では全体的にプライバシーと著作権に関するものが増加し、この仮説は正しいといえる。

	1985年～1994年	1995年～2003年	2004年～2012年
	出現回数	出現回数	出現回数
朝日新聞	17	8	9
日本経済新聞	2	21	17
図書館雑誌	7	30	37

表 27 新聞記事と図書館雑誌で「著作権」の各期間出現回数

(6) 図書館雑誌ではレファレンスサービスや指定管理者制度など専門的な点に触れたものが多いが、新聞記事ではあまり触れられていない。

表 29 は新聞記事と図書館雑誌で「レファレンス」の各期間の出現回数である。表 28 によると、新聞記事では 2004 年～2012 年でレファレンスが提出されている。それに対して、図書館雑誌では、レファレンスは同じぐらいの頻度で提出されている。「これからの図書館像」[13]ではレファレンスサービスの充実と利用促進を呼びかけているが、未だにレファレンスサービスは不十分と考えてよいであろう。

	1985年～1994年	1995年～2003年	2004年～2012年
	出現回数	出現回数	出現回数
朝日新聞	0	1	4
日本経済新聞	0	0	1
図書館雑誌	4	5	4

表 28 新聞記事と図書館雑誌で「レファレンス」の各期間出現回数

2003 年指定管理者制度の導入によって、図書館の運営のあり方が話題になると考えられる。図書館雑誌では特集「2003・トピックスを追う」(2003年12月)のタイトルで「図書館の管理運営－指定管理者制度の導入」について検討した。朝日新聞「どうなる公立図書館、進む民営化の現場」(2005年2月) 公立図書館の民営化の動きについて報道した。また、「公立図書館、指定管理者制度を考える集い」(2008年2月)などの指定管理者制度に

に関する記事が見られた。日本経済新聞では「神奈川県内初の「指定管理者」導入、綾瀬市立図書館、貸出が急増」(2009年3月14日)などの記事があった。新聞では図書館に「指定管理者制度」の導入が話題になっていると考えられる。

一方、図書館雑誌では指定管理者制度に関する特集がいくつかあり、「指定管理者制度と公立図書館経営」(2004年6月)、「これから公立図書館の行方—指定管理者制度導入をめぐって」(2005年4月)などがあった。新聞記事より多く取り上げられている。

以上により、図書館雑誌ではレファレンスサービスや指定管理者制度など専門的な点に触れたものが多いが、新聞記事の中でも、レファレンス、特に指定管理者制度など話題のあるものはよく取り上げられている。ゆえにこの仮説は正しいとは言い難い。

7. おわりに

7.1 まとめ

本研究では、新聞記事における図書館の描かれ方の変遷を明らかにするために、1985年～2012年の朝日新聞と日本経済新聞の図書館に関する記事を対象に、手作業による分類とテキストマイニングによる分析を行った。

その結果、館種については、朝日新聞と日本経済新聞共に国立国会図書館に関する記事が減少傾向にあり、公立図書館に関する記事は増加傾向にあることが見出された。一方、図書館雑誌の特集のタイトルでは、国立国会図書館に関するタイトルが経年的に増加する傾向が見られ、公立図書館も高い出現頻度を維持している。

テキストマイニングでは朝日新聞の特徴的な語として「子ども」「読書」「児童」などが挙げられたが、日本経済新聞では「システム」「企業」「事業」などが挙げられ、新聞によって傾向が異なることが分かった。また、図書館雑誌では「教育」「自由」「障碍者」などがよくタイトルに使われていた。特に、「教育」については「図書館学教育」「図書館利用教育」などと関連するものが多かった。新聞記事と図書館雑誌では図書館に関して扱う内容が異なることも示された。

図書館の建物に関する記事は1985年～1994年の期間に多く現れた。朝日新聞では近年減少したが、日本経済新聞では1995年～2003年の期間で減少した後、2004年～2012年の期間で増加していた。NDCによる分類では日本経済新聞においては「012 図書館建築・図書館設備」に分類される記事も増加する傾向が見られた。クラスタリングでは図書館建設に関する頻出語のクラスターが形成されるなど、図書館建設は依然として図書館の重要な話題であることが示された。

図書館の電算化については1985年～2003年の期間で、両新聞共に「コンピューター」「システム」といった電算化に関する語が頻出し、そうした語のクラスターも形成されたが、2004年以降は大幅に減少した。図書館の基本的な電算化はほぼ終わり、記事として取り上げるものではなくなったと考えられる。電子図書館に関する記事やタイトルは1995年～2003年の期間で最も多いことも示された。

図書館サービスについて語の出現頻度の点から述べると、日本経済新聞では「サービス」は増加する傾向が見られた。新聞記事、図書館雑誌共に図書館サービスの多様化、サービスの在り方に言及するものが多かった。例えば、「支援」という語の出現頻度は2004年～2012年に大幅に増加し、図書館の「読書支援」「情報支援」「子育て支援」「ビジネス支援」などと関連して現れていた。

子どもと読書に関して、朝日新聞と図書館雑誌では、1985年～2003年の期間において子どもの読書推進に関するものが多く見られ、2004年以降は減少した。これは「子どもの読書活動の推進に関する法律案」の成立前後に関連している。だが基本的に経済関係の記事を扱う日本経済新聞では「子ども」の出現頻度は2004年～2012年の期間でやや増加し、

この期間のみ子どもと読書に関するクラスターが形成されるにとどまった。

新聞記事と図書館雑誌とを比較してみると、新聞記事では図書館の電算化、図書館のサービス、建築などが多く取り上げられていた。こちらは図書館雑誌でも触れられているが、それよりも図書館員教育、障害者サービス、司書、職員などの方が相対的に多く取り上げられていた。新聞記事と図書館雑誌が扱う図書館の話題については若干異なることが示された。新聞記事では、2004年～2012年の期間で「図書館活用」に関する記事が増加していることから、図書館は役に立つというイメージが人々の間で強くなる可能性が考えられる。それに対して、図書館雑誌では近年「図書館評価」に関するタイトルが多く出現していることから、図書館内部では自己評価が問われていると考えられる。

7.2 今後の課題

本研究では「朝日新聞」と「日本経済新聞」を調査対象としたが、今後は他の新聞、例えば「毎日新聞」と「読売新聞」を加え、日本の主な全国紙における図書館の描かれ方を調査したい。また本研究におけるクラスター分析では頻出語のクラスターを分析したが、明確な主題が見られないクラスターも多かった。今後は新聞記事のサンプルを増やし、クラスターごとの主題が明確になるようにしてみたい。

最後に本研究で経年変化を分析するため新聞記事を等間隔に期間を区切ったが、図書館に関する大きな出来事を区切りといった分析も今後の課題としたい。また、「図書館雑誌」以外の図書館専門誌も比較対象としたい。

謝辞

本研究を行うにあたり、丁寧かつ熱心にご指導してくださった指導教員の辻慶太先生に、心より御礼申し上げます。また、熱心に論文をチェックしてくださった荒井俊介さん及びいつも優しく接してくださった辻研究室の皆様にも深く感謝しております。

誠にありがとうございました。

引用文献

- [1]山口眞也. 漫画に見る学校図書館と学校図書館職員のイメージ. 沖縄国際大学日本語日本文学研究. 2000, vol.5, no.1, p.1-33.
- [2]山口眞也. 漫画作品にみる「図書館の自由」:「利用者の秘密」を漏洩する図書館員. 沖縄国際大学日本語日本文学研究. 2002, vol.6, no.2, p.A31-A60.
- [3]伊藤敏朗. 映像表現における図書館と図書館員像に関する論考. 視聴覚資料研究. 特集 映像に描かれた図書館. 1991, vol.2, no.3, p.120-123.
- [4]飯島朋子. 映画の中の本屋と図書館. 2004.
- [5]村井恵. 図書館に関する新聞記事のクリッピングとその分析. 中京大学図書館学紀要. 1987, vol.8, p.72-80.
- [6]樋口耕一. 計算機による新聞記事の計量的分析:「毎日新聞」に見る「サラリーマン」を題材に. 論理と方法. 2004, vol.19, no.2, p.161-176.
- [7]藤井美和, 小杉考司書, 李政元. 福祉・心理・看護のテキストマイニング入門. 2005. p10.
- [8]ウィキペディア. “朝日新聞”. (オンライン), 入手先 <<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E6%9C%9D%E6%97%A5%E6%96%B0%E8%81%9E>>, (参照 2003 年 10 月 15 日).
- [9]文部科学省. “子どもの読書活動推進の取組～子どもの読書活動の推進について～”. (オンライン), 入手先 <http://www.mext.go.jp/a_menu/sports/dokusyo/suisin/>, (参照 2013 年 10 月 2 日).
- [10]文部科学省. “平成 18 年度における司書養成に関する議論のまとめ”. (オンライン). 入手先 <http://www.mext.go.jp/a_menu/shougai/tosho/giron/07042408.htm>. (参照 2013 年 11 月 20 日).
- [11]文部科学省. “公立図書館の設置及び運営上の望ましい基準”. (オンライン). 入手先 <http://www.mext.go.jp/a_menu/sports/dokusyo/hourei/cont_001/009.htm>. (参照 2013 年 11 月 15 日).
- [12]生涯学習研究 e 事典. “公共図書館の新たなニーズの発見とサービスの展開”. (オンライン). 入手先 <<http://ejiten.javea.or.jp/content.php?c=TWpBME9ESTE%3D>>. (参照 2013 年 12 月 1 日).
- [13]文部科学省. “これから図書館の図書館像”. (オンライン). 入手先 <http://warp.da.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/286184/www.mext.go.jp/b_menu/houdou/18/04/06032701/004.htm>. (参照 2013 年 11 月 15 日).

参考文献

- [1]山口眞也. 漫画に見る学校図書館と学校図書館職員のイメージ. 沖縄国際大学日本語日本文学研究. 2000, vol.5, no.1, p.1-33.
- [2]山口眞也. 漫画作品にみる「図書館の自由」:「利用者の秘密」を漏洩する図書館員. 沖縄国際大学日本語日本文学研究. 2002, vol.6, no.2, p.A31-A60.
- [3]伊藤敏朗. 映像表現における図書館と図書館員像に関する論考. 視聴覚資料研究. 特集 映像に描かれた図書館. 1991, vol.2, no.3, p.120-123.
- [4]飯島朋子. 映画の中の本屋と図書館. 2004.
- [5]村井恵. 図書館に関する新聞記事のクリッピングとその分析. 中京大学図書館学紀要. 1987, vol.8, p.72-80.
- [6]樋口耕一. 計算機による新聞記事の計量的分析:「毎日新聞」に見る「サラリーマン」を題材に. 論理と方法. 2004, vol.19, no.2, p.161-176.
- [7]藤井美和, 小杉考司書, 李政元. 福祉・心理・看護のテキストマイニング入門. 2005.
- [8]栗山正光. 新聞記事に出現する学術タイトルの傾向:朝日新聞の場合. 日本国書館情報学会 2011年春季研究集会. 2011.
- [9]永井靖人. テキストマイニングによる女子学生の防犯行動の抽出. 名古屋学芸大学短期大学部研究紀要. 2011, vol.8, p.104-115.
- [10]吉田稔, 中川裕志. テキストマイニングの活用. 情報の科学と技術. 2010, vol.60, no.6, p.230-235.
- [11]寺田充伸, 佐藤誠治, 小林祐司. テキストマイニングを用いたアンケート自由記述欄の分析による生活環境評価. 学術講演梗概集. 2011, p.515-516.
- [12]いとうたけひこ, 目黒健太. 朝日新聞と読売新聞の憲法記念日の社説のテキストマイニング. 日本行動計量学会大会発表論文抄録集. 2010, vol.38, p.294-297.
- [13]酒井隆行, 村上晴美. 新聞記事からの政治家の意見抽出. 全国大会講演論文集. 2008, vol.70, p. "2-181"- "2-182".
- [14]佐藤毅彦, サトウタケヒコ. 「Post-War(=『図書館戦争』)」時代の図書館イメージ: テレビドラマ『魔王』『ラブレター』のケースについて. 同志社大学図書館学年報. 別冊, 同志社図書館情報学. 2009, vol.20, p.21-41.
- [15]加藤謙介. 「ロボット・セラピー」をめぐる社会的言説に関する予備的考察: 新聞記事における「ロボット」及び「ロボット・セラピー」に関する言説分析. ロボティクス・メカトロニクス講演会講演概要集. 2009, p. "1A1-J07(1)"- "1A1-J07(4)".
- [16]山本明. インターネット掲示板においてテレビ番組はどのように語られるのか. マス・コミュニケーション研究. 2011, vol.78, p.149-167.
- [17]井川純一, 中西大輔, 志和資朗. "燃え尽き"のイメージ: 新聞記事データベースの内容分析および質問紙実験による検討. 社会心理学研究. 2013, vol.28, no.2, p.87-93.
- [18]福嶋美佐子. 新聞記事の内容分析から(日本におけるドイツイメージ(3)). 日本行動計量

学会大会発表論文抄録集. 2006, vol.34, p.336-337.

- [19]田川隆博. ネットいじめ言説の特徴 -新聞記事の内容分析から-.名古屋文理大学紀要.
2012, vol.31, p.89-96.
- [20]熊本忠彦, 河合由起子, 田中克己. 新聞記事を対象とするテキスト印象マイニング手法
の設計と評価. 電子情報通信学会論文誌. 2011, vol.J94-D, no.3, p.540-548.
- [21]藤谷幸弘, 前田博子. Camden における図書館ネットワークの変遷と市民運動. 日本図
書館情報学会誌. 2005, vol.51, no.1, p.1-14.

付録

付録（1）朝日新聞の頻出150語リスト	1
付録（2）日本経済新聞の頻出150語リスト	2
付録（3）図書館雑誌の頻出150語リスト	3
付録（4）朝日新聞の各期間の階層的クラスター分析によるデンドログラム	4
付録（5）日本経済新聞の各期間の階層的クラスター分析によるデンドログラム	7
付録（6）図書館雑誌の各期間の階層的クラスター分析によるデンドログラム	10

付録（1）朝日新聞の頻出 150 語リスト

朝日新聞頻出150語リスト					
抽出語	出現回数	抽出語	出現回数	抽出語	出現回数
図書館	1615	国立国会図書館	72	完成	49
本	477	借りる	72	参加	49
利用	423	前	71	町立図書館	49
図書	232	絵本	70	学校図書館	48
公立	200	提供	70	中心	48
貸出	193	現在	69	管理	47
開館	177	市立	68	集める	47
蔵書	175	コンピューター	67	充実	47
子ども	174	県内	67	出る	47
資料	172	見る	67	部長	47
人	158	雑誌	66	委員	46
市民	138	始める	66	運営	46
話す	138	問題	65	登録	46
東京	136	関係	64	同館	46
児童	130	市内	64	関西	44
市	126	大阪	64	記念	44
情報	125	活動	62	事業	44
市立図書館	123	購入	61	障害	44
読む	123	公立図書館	60	声	44
写真	120	地域	60	ボランティア	43
開く	117	問い合わせ	60	世界	43
サービス	106	考える	59	増える	43
司書	104	知る	59	置く	43
読書	103	同市	59	導入	43
県立図書館	98	計画	58	目	43
出版	95	住民	58	予約	43
文化	95	無料	58	休館	42
コーナー	94	町	57	協議	42
午後	93	予定	57	制度	42
国会図書館	93	センター	56	会	41
大学	93	昨年	56	県立	41
地方	90	使う	56	公開	41
中央図書館	90	社会	56	受ける	41
館長	89	収集	56	対象	41
検索	87	オープン	55	目指す	41
研究	87	寄贈	55	可能	40
説明	87	国立	55	企画	40
専門	87	システム	54	事務	40
展示	87	学校	54	一部	39
ほか	86	作品	54	夏休み	39
閲覧	85	持つ	54	決める	39
建設	85	思う	53	作家	39
県	85	求める	52	初めて	39
一般	83	午前	52	担当	39
日本	83	時間	52	発行	39
職員	80	必要	52	教授	38
調査	80	新聞	51	検討	38
全国	79	学生	50	歴史	38
施設	76	時代	50	山口	37
多い	75	カード	49	所蔵	37

表 朝日新聞頻出 150 語リスト

付録（2）日本経済新聞の頻出 150 語リスト

日本経済新聞頻出150語リスト					
抽出語	出現回数	抽出語	出現回数	抽出語	出現回数
図書館	1605	関係	79	パソコン	52
利用	356	設置	76	進める	52
本	336	公立図書館	75	規模	51
情報	230	大阪	74	部長	51
資料	229	完成	71	コーナー	50
蔵書	181	管理	69	協会	50
貸出	175	市民	69	展示	50
東京	175	提供	69	オープン	49
図書	165	活動	68	充実	49
国会図書館	162	雑誌	67	障害	49
システム	155	時間	67	問題	49
公立	154	必要	67	可能	48
建設	151	検討	66	話す	48
サービス	145	現在	66	協力	47
調査	143	午後	66	今回	47
施設	129	収集	66	支援	47
国立国会図書館	128	学生	65	コンピューター	46
計画	122	使う	65	一部	46
日本	121	市立図書館	65	学習	46
出版	119	持つ	64	司書	46
開館	116	ネット	63	運営	45
検索	116	購入	63	前	45
県立図書館	116	今後	63	電子図書館	45
閲覧	113	中心	63	ボランティア	44
人	113	ビデオ	62	会議	44
大学	113	整備	62	絵本	44
ほか	110	対象	62	見る	44
予定	106	無料	62	書店	44
写真	102	時代	61	テーマ	43
全国	100	読書	60	児童	43
文化	99	インターネット	59	新潟	43
県	95	活用	59	導入	43
研究	93	社会	59	漫画	43
開く	91	受ける	59	歴史	43
一般	90	開発	58	ソフト	42
多い	89	保存	58	学校	42
市	88	予算	58	所蔵	42
中央図書館	88	館長	57	設計	42
書籍	86	昨年	57	対応	42
増える	85	場合	57	得る	42
子ども	84	読む	57	委員	41
センター	83	面積	57	機関	41
国立	83	県内	56	技術	41
地域	83	集める	56	初めて	41
公開	82	カード	55	床	41
企業	81	機能	54	基本	40
始める	81	教育	54	記念	40
事業	81	市立	54	参加	40
職員	81	ネットワーク	53	実施	40
専門	81	借りる	53	設ける	40

表 日本経済新聞頻出 150 語リスト

付録（3）図書館雑誌の頻出 150 語リスト

図書館雑誌頻出150語リスト					
抽出語	出現回数	抽出語	出現回数	抽出語	出現回数
図書館	1686	年度	53	新た	31
特集	426	協力	50	委託	30
サービス	348	平成	50	雑誌	30
大会	235	研究	49	連携	30
情報	230	向ける	49	ハイライト	29
資料	224	青少年	49	運営	29
大学図書館	220	大学	49	関連	29
利用	190	システム	48	現場	29
学校図書館	169	時代	47	国際	29
問題	148	調査	47	招待	29
全国	140	提供	47	新しい	29
教育	139	評価	47	電子	29
考える	135	市民	46	平和	29
参加	130	展開	46	見る	28
公共図書館	125	目指す	46	導入	28
活動	116	学習	44	目録	28
自由	111	状況	43	政策	27
職員	107	事例	42	関係	26
現状	101	障害	42	健康	26
読書	98	日本図書館協会	41	現在	26
保存	93	役割	41	交流	26
児童	91	公立図書館	40	構築	26
出版	90	今後	40	収集	26
課題	89	場合	40	デジタル	25
子ども	89	支援	39	レポート	25
司書	86	振興	39	会議	25
専門図書館	85	世紀	39	学ぶ	25
障碍者	76	求める	38	技術	25
制度	74	未来	38	行事	25
著作権	74	東京	37	国立	25
本	73	ボランティア	36	いま	24
ネットワーク	69	改正	36	可能	24
報告	69	社会	36	今	24
短大	68	人	36	生涯	24
図書	66	協会	35	全体	24
養成	65	試み	35	町立図書館	24
県立図書館	64	実践	35	読む	24
高専	64	日本	35	開館	23
地域	64	学校	34	期待	23
文化	64	部会	34	最近	23
専門	63	活用	33	指導	23
委員	61	環境	33	施設	23
分科	59	指定	33	戦争	23
取り組み	57	インターネット	32	力	23
管理	55	貸出	32	データベース	22
研修	55	町村	32	記念	22
国立国会図書館	55	展望	32	神奈川	22
市立図書館	55	法	32	総合	22
流通	55	業務	31	動向	22
中心	54	事業	31	すべて	21

表 図書館雑誌頻出 150 語リスト

付録（4）朝日新聞の各期間の階層的クラスター分析によるデンドログラム

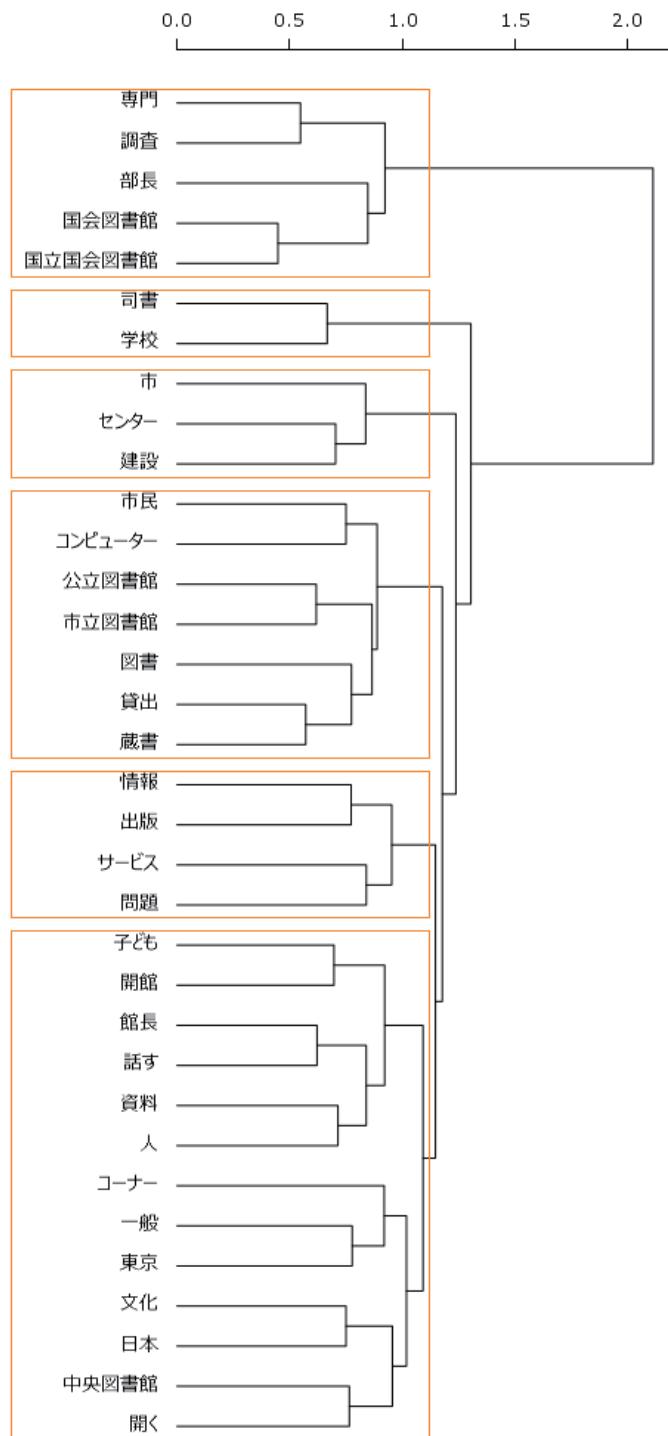


図 朝日新聞 1985 年～1994 年の階層的クラスター分析によるデンドログラム

階層的クラスター分析によって作成したデンドログラムは Ward 法、Jaccard 距離による算出。KH Coder から自動生成するものである。

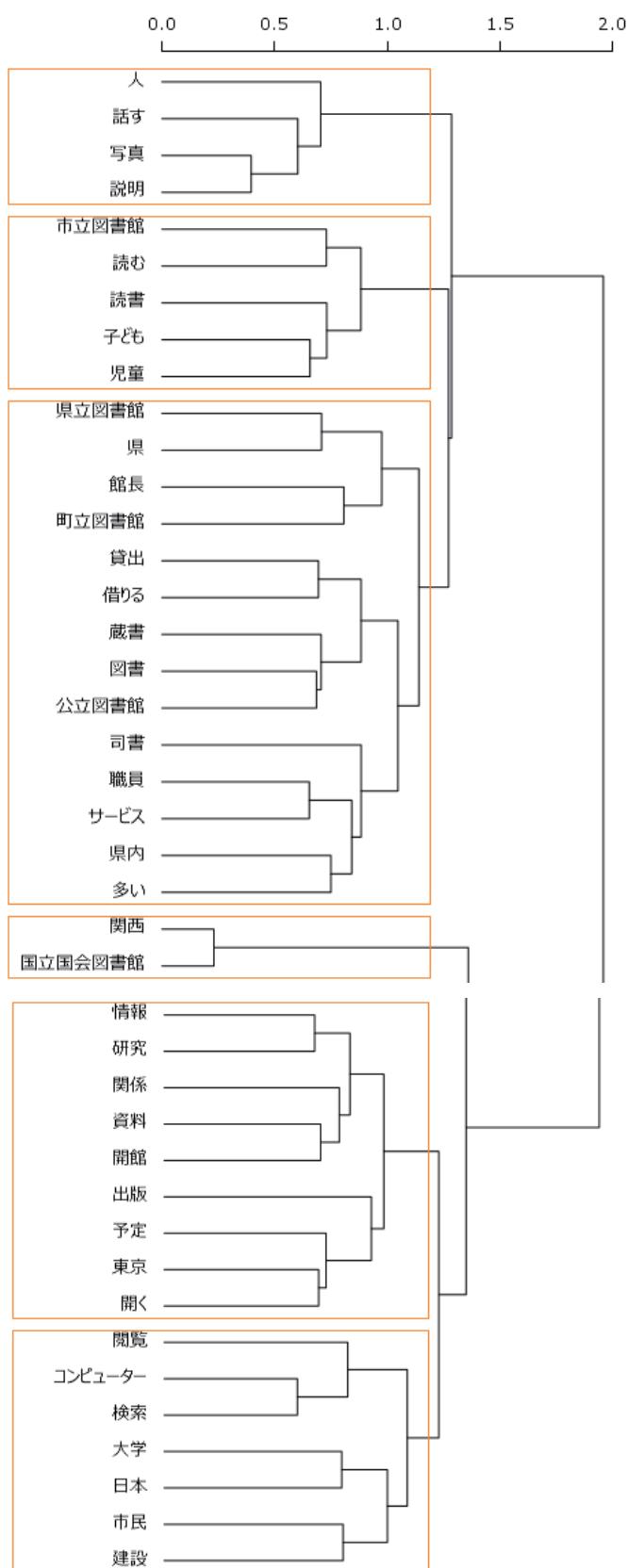


図 朝日新聞 1995 年～2003 年の階層的クラスター分析によるデンドログラム

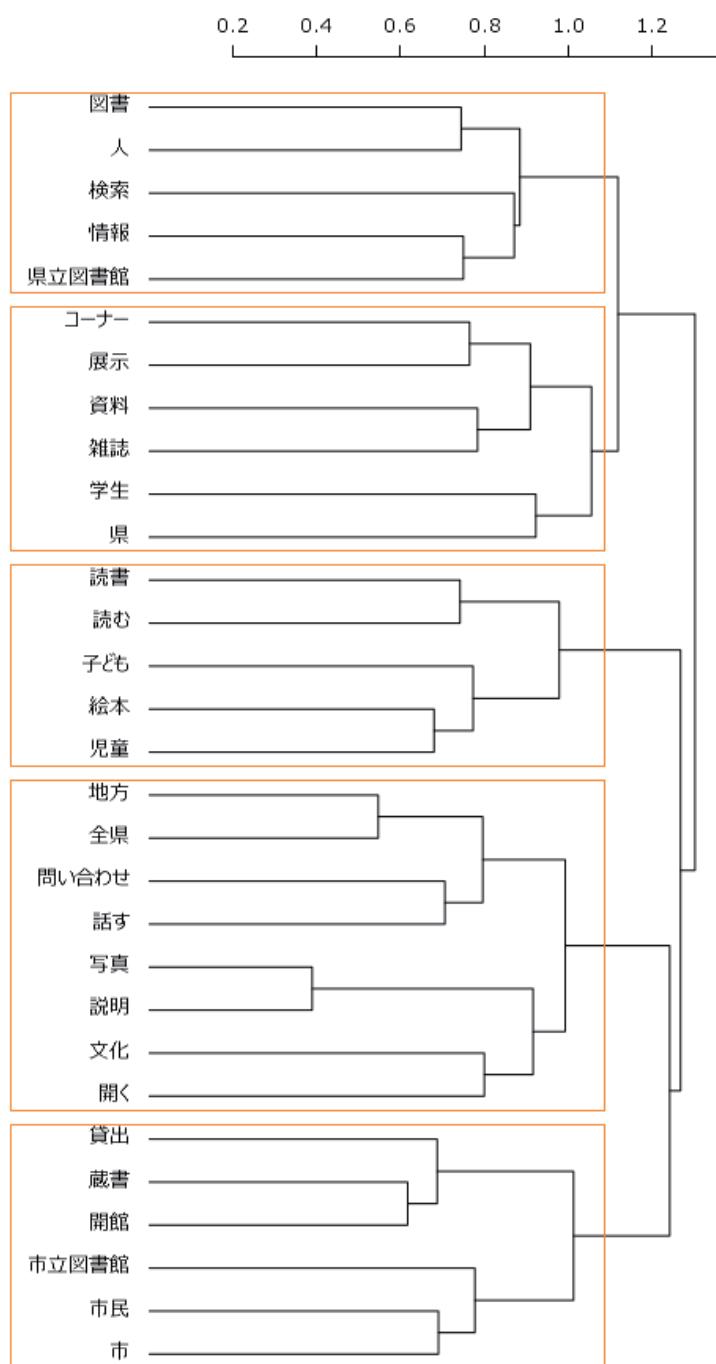


図 朝日新聞 2004 年～2012 年の階層的クラスター分析によるデンドログラム

付録（5）日本経済新聞の各期間の階層的クラスター分析によるデンドログラム

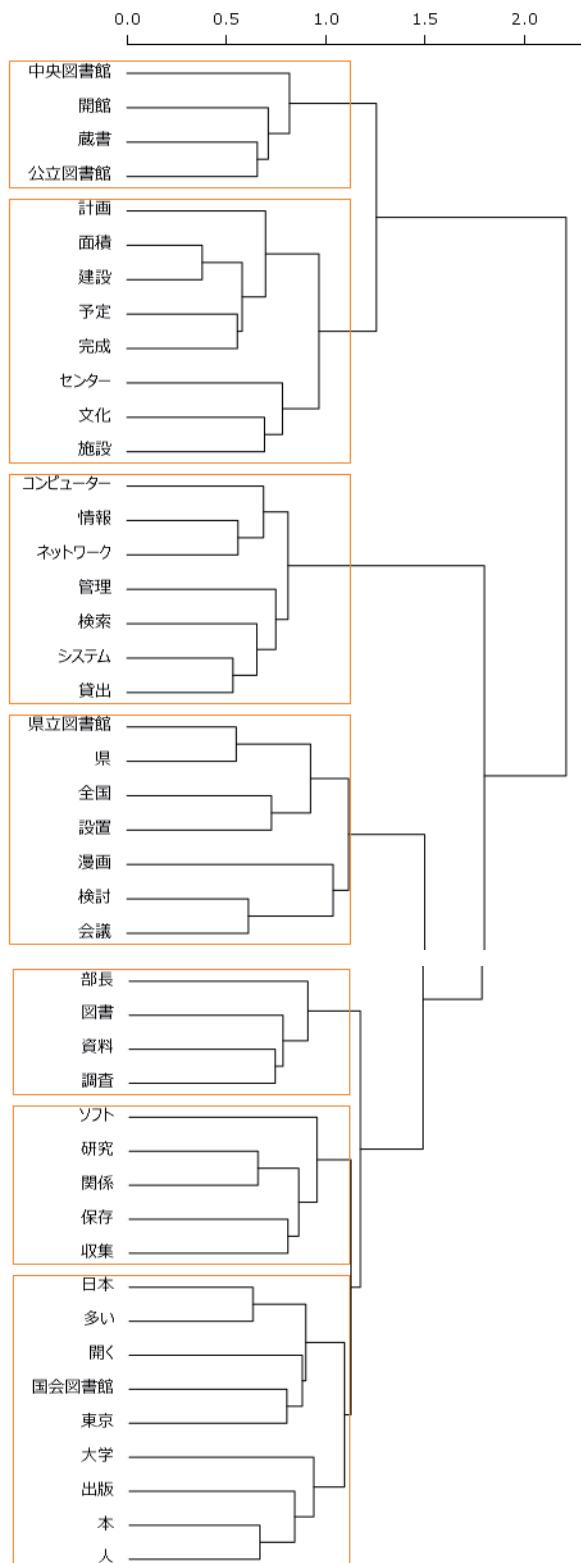


図 日本経済新聞 1985 年～1994 年の階層的クラスター分析によるデンドログラム

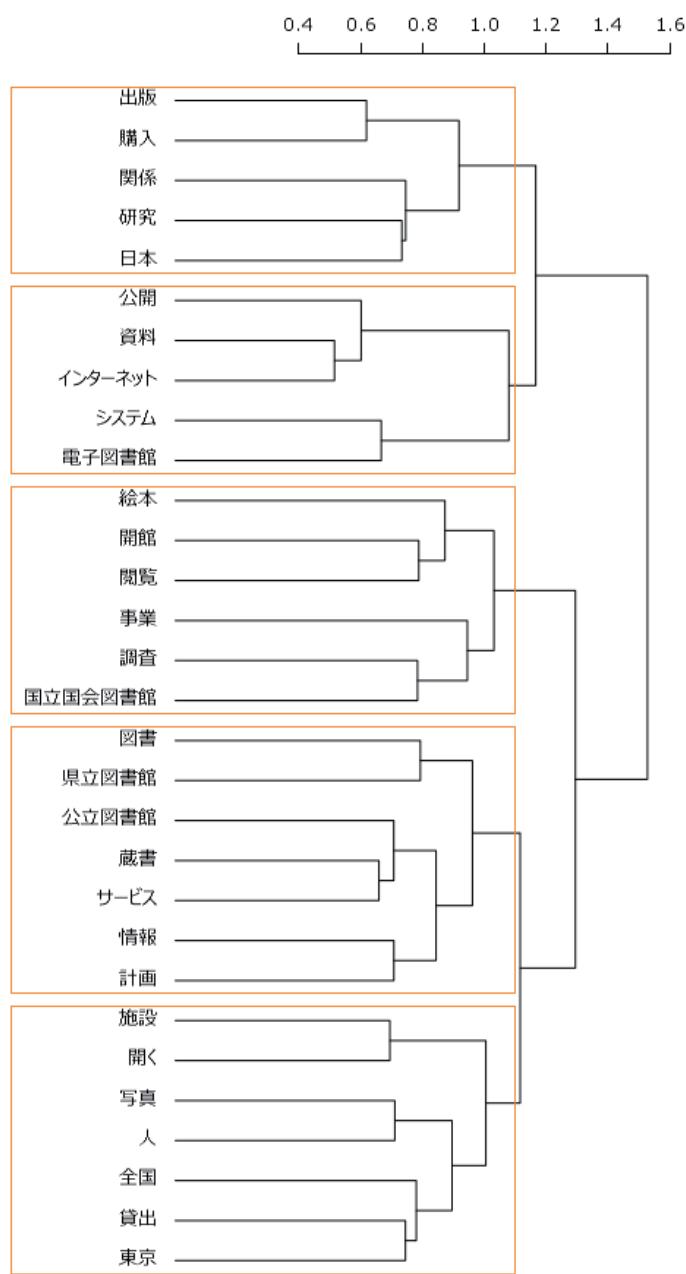


図 日本経済新聞 1995年～2003年の階層的クラスター分析によるデンドログラム

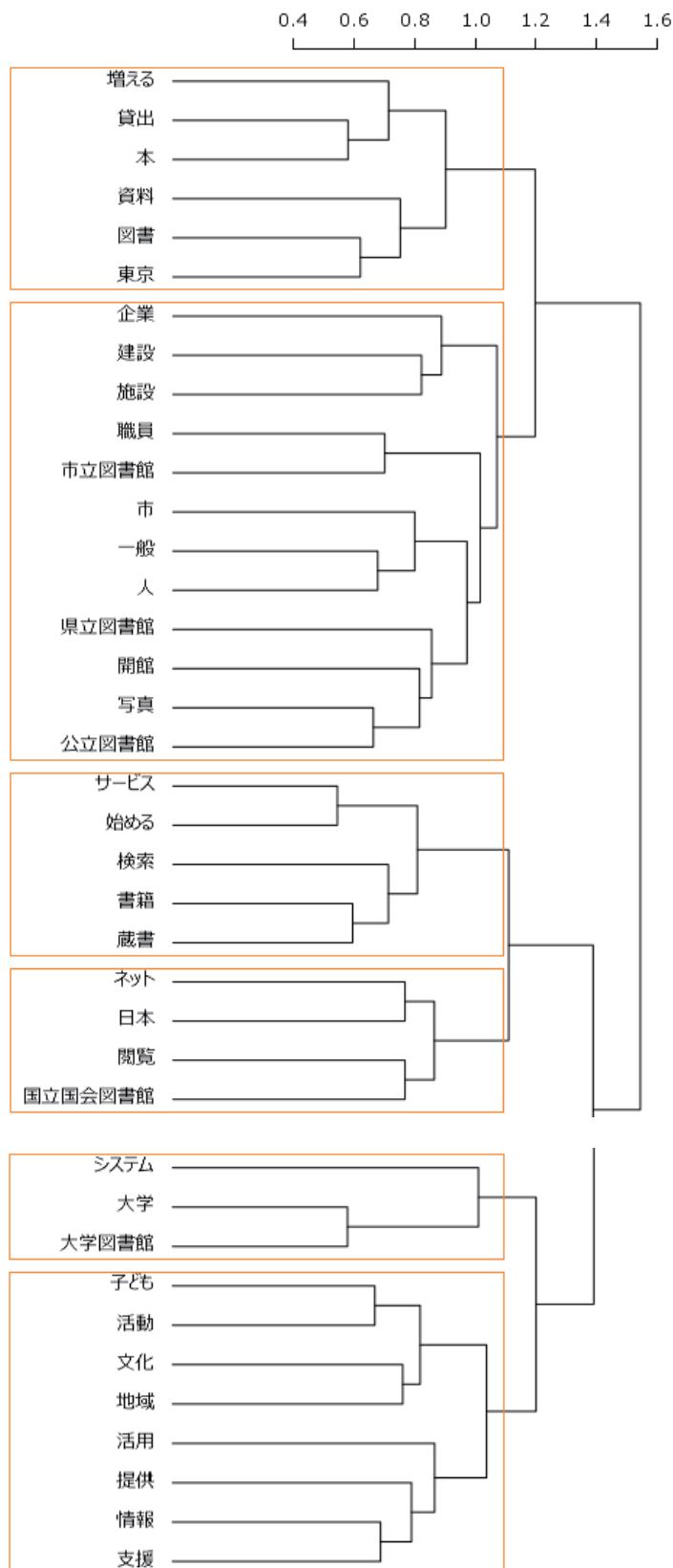


図 日本経済新聞 2004 年～2012 年の階層的クラスター分析によるデンドログラム

付録（6）図書館雑誌の各期間の階層的クラスター分析によるデンドログラム

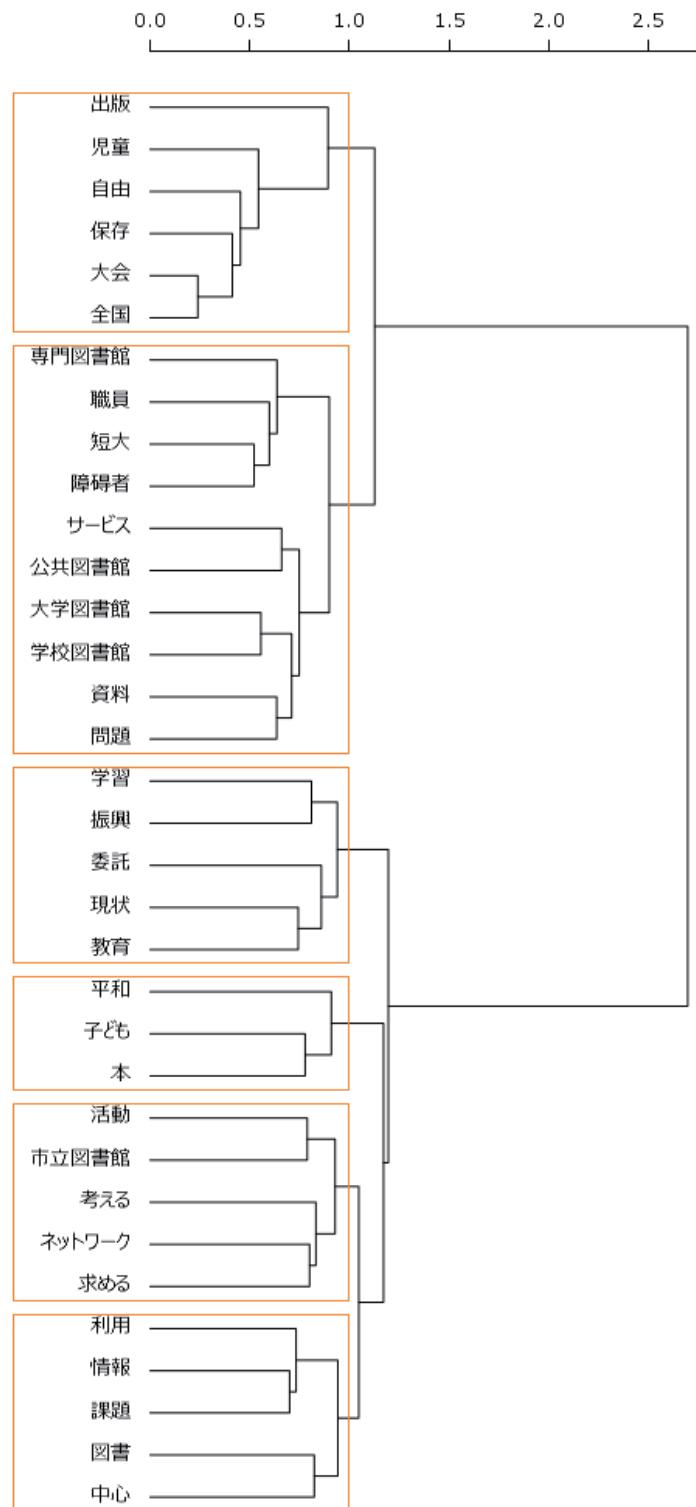


図 図書館雑誌 1985 年 1994 年の階層的クラスター分析によるデンドログラム

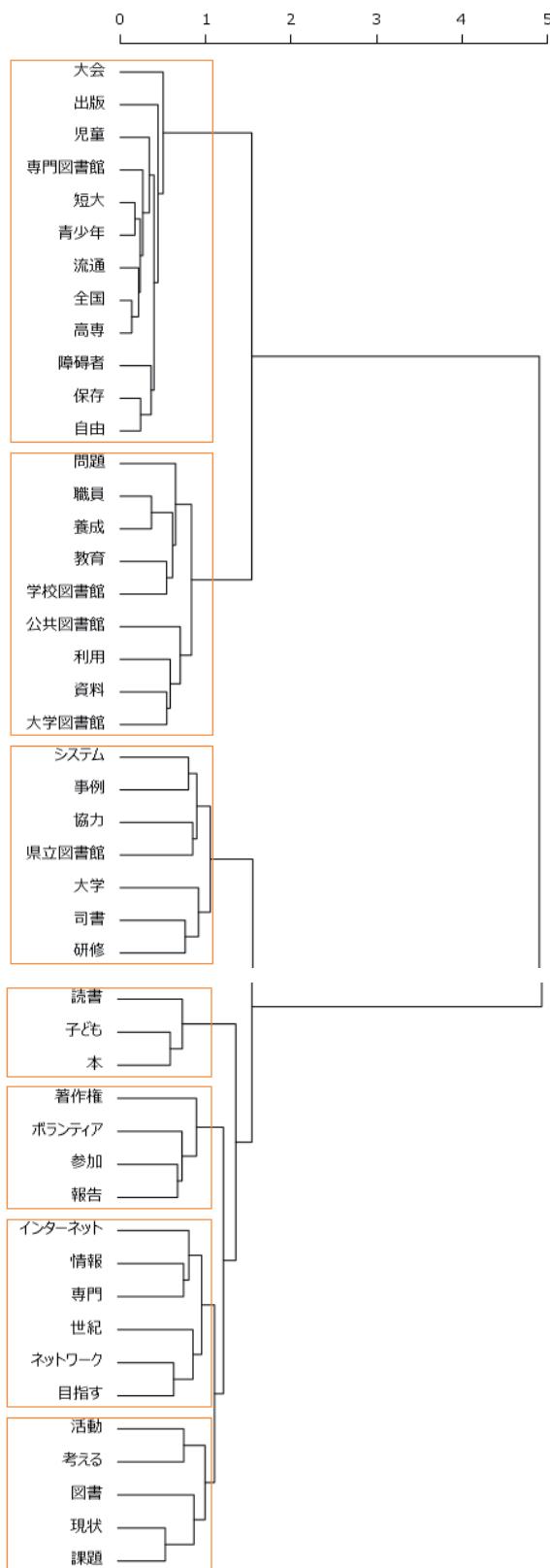


図 図書館雑誌 1995 年～2003 年階層的クラスター分析によるデンドログラム

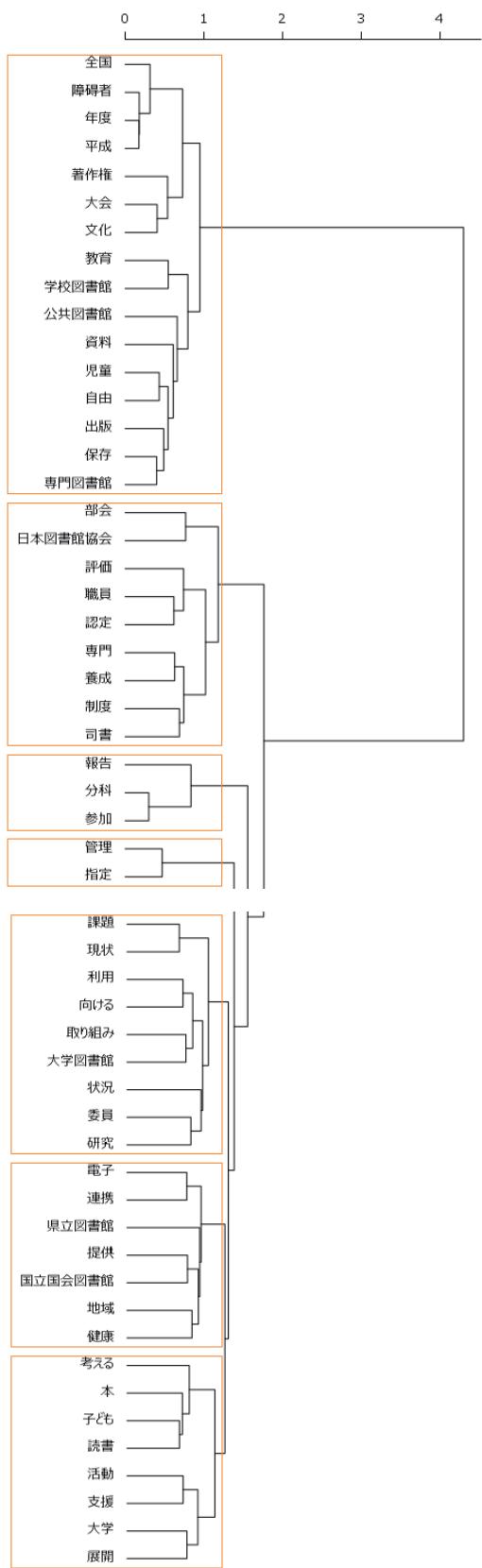


図 図書館雑誌 2004 年～2012 年階層的クラスター分析によるデンドログラム